

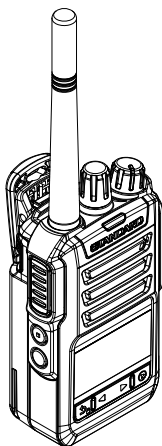
デジタル
30
チャンネル

Digital Convenience Radio

3R 登録局

Digital

【資格不要】



携帯型デジタルトランシーバー

VXD30

取扱説明書

- ◎ 送信出力5W
- ◎ 陸上波 30 チャンネル
- ◎ 上空波 5 チャンネル受信可能
- ◎ 安心の3年保証
- ◎ 防塵防水性 IP67/MIL-STD-810G
完全防水ではありませんので、水中での使用はできません

お買い上げいただき、ありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。
このトランシーバーは国内専用モデルです。海外では使用できません。

販売元：八重洲無線株式会社 国内営業部

開発製造：バーテックススタンダードLMR 合同会社
a Motorola Solutions Company



E C 1 4 9 U 0 0 C

© 2018 バーテックススタンダードLMR合同会社
無断転載・複写を禁ず

中国印刷

目次

はじめに.....	4
無線局登録申請について.....	4
ご利用にあたって.....	4
アフターサービス.....	4
電波干渉について.....	4
免責事項.....	5
構成品.....	5
防水性能について.....	5
説明文中の表記について.....	6
安全上のご注意.....	7
安全上の注意 ～必ずお読みください～.....	7
お使いになる前に.....	12
アンテナの取り付け.....	12
ベルトクリップの取り付け.....	12
ハンドストラップの取り付け.....	13
リチウムイオン電池パックについて.....	14
電池パックの取り付け / 取り外し.....	15
電池パックの充電方法.....	16
各部の名称と機能.....	18
デジタル簡易無線局について.....	20
チャンネル構成とコールチャンネル (ARIB 種別コード：3R).....	20
通信方式.....	20
通信時に動作する機能に関して.....	21
操作のしかた.....	22
通話のしかた (UC通信機能) 基礎編.....	22
キーロック機能 基礎編.....	24
キーロックの条件を変更.....	24
各機能の設定.....	25
簡易リスト.....	26
コールモード (拡張機能).....	28
セットモード (拡張機能).....	30
管理番号表示 (拡張機能).....	33
ユーザー同士で交信したい (UC通信機能) 応用編.....	34
盗聴されにくい交信をしたい (秘話機能) 応用編.....	36
個別に呼び出したい (個別通信機能) 応用編.....	38
個別通信とは.....	38
呼び出しのベル音回数設定と自局情報の確認.....	41
個別通信時に便利な機能.....	42
緊急アラーム機能.....	45

目 次

便利な機能	50
録音メモ機能	50
リピート再生	52
イコライザー機能	53
ノイズキャンセル機能	54
インテリジェントオーディオライト機能	54
セミ VOX オペレーション機能 (F17 セミ VOX オペレーション)	54
VOX 機能	55
スキャン機能	56
バックライト	59
音声案内 (ボイスチャンネルアナウンス)	59
ワンタッチで音量を下げる (F13 ワンタッチボリューム)	60
必要に応じて使う機能	61
ピープ音量調整 (F01 ピープレベル)	61
ディスプレイのコントラスト調整 (F16 コントラスト)	61
マイクレベルの調整 (F02、F03)	62
送信 (TX) ピープと受信 (RX) ピープ (F06、F07)	63
信号が極端に弱くなると知らせる (F09 弱電界アラーム)	64
電池バックが消耗するとアラームで知らせる (F12 電池アラーム)	64
チャンネルが空いたとき通知する (F14 CH 空き通知)	65
オプションの電源供給 (F15 ACC 電源)	65
イヤホン / スピーカーマイクの特性補正 (F20 外部アクセサリタイプ)	66
外部マイクロホンの取り付け	66
送信出力の設定 (F08 送信出力)	67
適切なマイク感度に自動調整する (F19 TX AGC)	67
PTT をホールドタイプに変更する (F21 PTT ホールド)	68
プログラムキーの設定を変更する (F27 ~ F30)	69
上空用チャンネルをモニターする (F22 上空 CH)	70
電池バックの消耗を防ぐ (F26 スーパーセーブ)	70
2 時間オフタイマー (F31 自動電源 OFF)	71
拡張機能の設定を初期値に戻す (F32 設定リセット)	71
付 録	72
故障かな？と思う前に... ..	72
定 格	73
音声圧縮 (符号化) 方式について	73
オプション一覧表	74
キー操作早見表	75
索 引	76
保証書	表 3、表 4

はじめに

無線局登録申請について

本機をご使用になるには、電波法で定められている「無線局登録申請」を行い、登録状の交付を受ける必要があります。

本機をご使用になる前に、別紙「無線局登録申請の手引き」を参考にして、必ず登録申請を行い、登録状の交付を受けてください。

注意

登録状の交付を受けずに本機を運用し、電波を出した場合、電波法第9章110条に定められた罰則（一年以下の懲役又は百万円以下の罰金）が適用されますので、必ず無線局登録申請を行い、登録状の交付を受けた後に運用を行ってください。

ご利用にあたって

- ◎ 本機は、技術基準適合証明を取得し、ARIB規格に準拠していますので、他社のデジタル簡易トランシーバー（種別コード「3R」）との互換性を確保しています。ARIB規格以外の機能の互換性はありません。
- ◎ 本体背面に貼り付けてある“証明ラベル”を剥がしたり、“分解”や“改造”を行うことは、法律で禁止されています。
- ◎ 他人の会話を聞いて、その内容を漏らすと法律で罰せられることがあります。
- ◎ 本説明書には、工場出荷時の標準的な設定での説明が記載されています。

アフターサービス

- ◎ 正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがお買い上げいただきました販売店または、下記までご相談ください。
- ◎ 取扱説明書の記載内容を予告無く変更する場合があります。詳しくは下記のURLをご覧ください。

八重洲無線株式会社

国内営業部

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル

電話：03-6711-4055

URL：<http://www.yaesu.com/jp/>

電波干渉について

近距離で複数のグループの人が、複数のチャンネルを使用して通話するような場合に、隣り合うチャンネル同士の電波の干渉により、通話に支障が生じることがあります。このような時は、隣り合うチャンネル（例：“-CH01-”と“-CH02-”）でのご使用を避けていただき、離れたチャンネルを設定していただくことで、干渉を軽減することができます。

免責事項

- ◎ 取扱説明書に記載の使用法とは異なる使用法により発生した故障、障害、損害について、当社は一切責任を負いません。
- ◎ 本機を使用して生じた障害や損害について、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いません。

構成品

本体 (VXD30).....	1	MIC/SP 端子カバー.....	1
アンテナ [*] (ATU-12J)	1	(本体に取り付け済み)	
ベルトクリップ (CLIP-20)	1	取扱説明書 (保証書裏表紙).....	1
リチウムイオン電池パック (FNB-V145LI)	1	簡易操作ガイド.....	1
卓上充電器セット	1	無線局登録申請書.....	1
(チャージャースタンド+ AC アダプタ)		無線局登録申請の手引き一式	

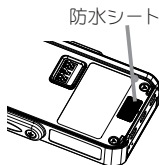
※：λ / 4 短縮型、利得 2.14dB 以下

- ・ 保証書に、お買い上げの販売店名とお買い上げ日が記入されていることをご確認ください。
- ・ 不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

防水性について

本機は、IEC 国際規格 IP67(防塵等級 6^{※1}、防水等級 7^{※2})の防塵、防水性能を有しています。この防水性を末永く確保していただくために、必ずご使用になる前に下記の項目をご確認ください。製品本体の防水性能を維持するためには、異常の有無に関わらず保証期間経過後、1年に一度のメンテナンスをお勧めします(有償にて承ります)。過失等、故障内容によっては、保証期間内においても有償修理の対象となる場合があります。

- ◎ キーのラバー、MIC/SP 端子カバー、防水シート、電池パック接合部分などに、キズ、劣化、汚れ、剥がれがないか確認してください。
- ◎ 海水砂泥などが付いたときは、ケースが損傷していないことを確認した上で、真水で洗い流し、すぐに乾いた布で拭き取ってください。
- ◎ 本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。
- ◎ 本機は、水中での使用はできません。
 - ※1： 粉塵が内部に侵入しない。
 - ※2： 加圧を加えない真水・静水に水深1mの位置で 30 分間没しても有害な影響を生じないこと。



はじめに

説明文中の表記について

キー操作について

キー操作は短く押したときや長く押したときに機能の動作が異なります。本文中にはキーの操作を下記のように記載されていますので、キー操作を間違えないように操作してください。

“短押し”・・・指定のキーを短く押します。

キーの押し方が短く押す方法と長く押す方法の2種類ある場合に記載されています。

“長押し”・・・指定のキーを1秒以上長く押します。

キーの押し方が短く押す方法と長く押す方法の2種類ある場合に記載されています。

“押す”・・・キーの押し方が1種類で短押しの場合に記載されています。

本文中各キーやスイッチを図で表記します。

PTT スイッチ		ロータリースイッチ	
プログラム 1 キー		選択 / 機能キー	
プログラム 2 キー		左右選択キー	
電源スイッチ / 音量調節ツマミ		戻るキー	

警告と注意マークについて

 危険	この表示は「人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
 警告	この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
 注意	この表示は「人が障害を負う可能性が想定される内容や物的損害の発生が想定される内容」を示しています。
	本機を安全に正しくお使い頂くために、行ってはならない禁止事項が記載されています（例  分解禁止）。
	本機を安全に正しくお使い頂くために、必ず守って頂きたい注意事項が記載されています。
 補足	この注釈は説明文に対しての補足文を示しています。使用中のアドバイスや機能の補足文を記載されています。
 注意	この注釈は説明文に対しての注意文を示しています。機能を使用するときの注意が記載されています。

安全上のご注意

安全上のご注意 ～必ずお読みください～



危険

● 使用環境や条件について



自動車を運転しながら交信や操作をしない

事故の原因になるだけでなく、道路交通法違反になります。

運転者が使用するときには、車を安全な場所に止めてから操作してください。



航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”では電源を切る

電子機器や医療機器に影響を及ぼす場合があります。



引火性ガスの発生する場所や高所などの危険な場所で使用しない

発火事故や落下事故などの原因になります。

● トランシーバーの取り扱いについて



電源端子をはんだ付けやショートをしない

火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運ばないでください。

● 電池パックの取り扱いについて



電池パックが漏液して皮膚に付着したり、目に入ると危険

化学やけどを起こすおそれがあります。電池内部の電解液が漏れて皮膚や衣類に付着した場合は、すぐに大量の水で洗い流して下さい。また、目に入った場合は失明の恐れがありますので、こすらずに大量の水で洗い流し、直ちに医師の診断を受けてください。



電池パックを火のそばや、炎天下など高温の場所で充電・使用・放置しない

火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



加熱したり、火の中へ投げ込まない

漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



分解・改造・破壊しない

漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



電池パックの端子にはんだ付けやショートをしない

線材で配線したりネックレスやヘアピンなどでショートをしないでください。

漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

安全上のご注意

安全上のご注意

警告

●トランシーバーの取り扱いについて



分解や改造をしない

本機は電波法に基づく無線局です。

分解や改造は違法ですのでおやめください。また、ケガ等の事故や故障の原因になります。



本機は、“IP67”の防浸構造になっておりますが、特に海水などがついたときは水で洗い流し、乾いた布などで拭きとる性能や寿命を低下させる原因になります。



周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所での使用は避ける

温度：－20℃～＋60℃、湿度：95%(35℃)の範囲以内で使用してください。



自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。



心臓ペースメーカー装着者は使用しない

本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。



煙が出ている、変な臭いがするときは電源スイッチを切って、電池パックを外す

火災や故障の原因になります。お買い上げいただきました販売店または、八重洲無線株式会社国内営業部に修理をご依頼ください。



心臓ペースメーカー装着者に配慮し、人ごみでは電源を切る

本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

●充電器の取り扱いについて



当社指定以外のチャージャースタンドや AC アダプタを使用しない
火災や故障の原因になります。



引火性ガスの発生する場所で使用しない

発火事故の原因になります。



チャージャースタンドから煙が出ている、変な臭いがする、電池パックが通常より発熱していると異常が感じられるときは、トランシーバー / 電池パックを外し AC アダプタをコンセントから外す
異常状態のまま使用すると、火災・破裂・発火などの原因になります。



警告

● 充電器の取り扱いについて



チャージャースタンドの端子をはんだ付けやショートをしない
線材で配線したり、ネックレスやヘアピンなどでショートをしないでください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

● 電池パックの取り扱いについて



電池パックは濡れた状態でトランシーバーやチャージャースタンドに
装着しない

トランシーバーやチャージャースタンドの端子に水や海水が付着して故障の原
因になります。



電池パックは指定機器以外の用途に使用しない

機器の故障だけでなく、電池パックの漏液・発熱・破裂・発火などの原因
になります。



電池パックを電磁調理器等の中や上に置かない

電池パックの漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



指定時間以上、電池パックを充電しない

満充電の状態で再度充電を行うと、過充電となり電池パックの漏液・発熱・
破裂・発火などの原因になります。



指定時間を超えて充電が完了しないときは、ただちに電池パック
の充電を中止する

電池パックの劣化だけでなく、漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



注意

● トランシーバーの取り扱いについて



アンテナやハンドストラップを持って、本体を振りまわしたり投げたり
しない

本人や他人に当たり、ケガの原因になります。また、本体の故障や破損の
原因にもなります。



アンテナを折り曲げたりしない

アンテナの変形や破損の原因になります。



強い衝撃を加えたり、投げつけたりしない

故障の原因になります。



磁気カードなどをトランシーバーに近づけない

キャッシュカードやフロッピーディスクなどの内容が消去されることがあります。

安全上のご注意



注意

●トランシーバーの取り扱いについて



人の多い場所では使用しない

アンテナが他人に当たり、ケガの原因になります。



トランシーバーを直射日光の当たる場所や熱器具の近くに放置しない

変形や変色等の原因になります。



シンナーやベンジンなどでケースを拭かない

変形や変色等の原因になります。

ケースが汚れた場合には、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。



小さなお子さまの手の届かない場所に保管する

ケガなどの原因になります。

●充電器の取り扱いについて



分解や改造をしない

火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



水のかかる場所での使用や、濡れた手で触らない

故障や感電する原因になります。



火のそばや、炎天下など高温の場所で充電・放置しない

火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

周囲温度が+5℃～+35℃の範囲内にある所で使用してください。



指定以外の電池パックを充電しない

火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



電源コードの上に重いものを載せない

電源コードが傷つき、火災や感電などの原因になります。



小さなお子さまの手の届かない場所に保管する

ケガなどの原因になります。



シンナーやベンジンなどでケースを拭かない

ケースが汚れたときは、乾いたやわらかい布で拭き取ってください。

注意

●電池パックの取り扱いについて

-  強い衝撃を与えたり、投げつけたりしない
漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
-  電池パック単体で、水や海水などにつけたり、濡らさない
破損や性能、寿命を低下させる原因になります。
-  電池パックを本体に装着したまま長時間放置 / 保管したり、周囲の温度が $-20^{\circ}\text{C} \sim +35^{\circ}\text{C}$ の、腐食ガスのない湿度の低い乾燥した場所以外での保管はしない
性能や寿命を低下させる原因になります。

-  直射日光の強い所や高温の場所での使用・放置をしない
発熱・発火・電池パックの性能や寿命を低下させる原因になります。

-  シンナーやベンジンなどでケースを拭かない
変形や変色等の原因になります。
ケースが汚れた場合には、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

-  小さなお子さまの手の届かない場所に保管する
ケガなどの原因になります。

●オプションについて

-  指定以外のオプションを使用しない
故障や破損の原因になります。
当社純正品以外のオプションの使用が原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、当社では一切責任を負いません。
-  オプションのマイクロホンを取り付けた際は、コードを強く引き伸ばしたままにしない
コードの断線などにより、故障の原因になります。

お使いになる前に

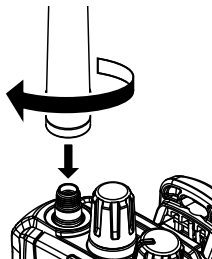
アンテナの取り付け

アンテナコネクタに近い太い部分を持ち、時計まわりにしっかりと止まるまでまわします。



注意

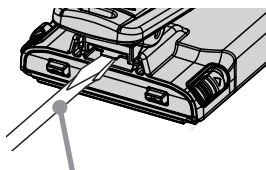
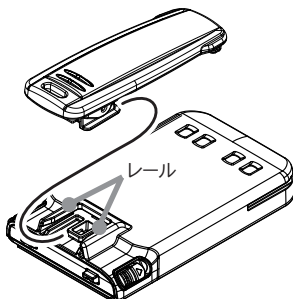
- アンテナの取り付け / 取り外し時には、アンテナの上部を持ってまわさないでください。アンテナ内部で断線することがあります。
- アンテナを外した状態で送信しないでください。送信回路が破損することがあります。



お
使
い
に
な
る
前
に

ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップをレールにあわせカチッと音がするまで、確実にスライドします。



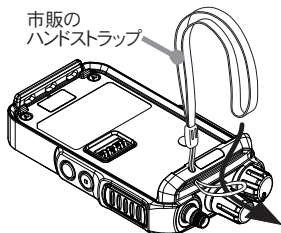
マイナスドライバー



注意

ベルトクリップを外すときは、マイナスドライバー等でロックレバーを押し上げながらスライドして外します。指を使うと爪をはがしてケガの原因になることがあります。

ハンドストラップの取り付け



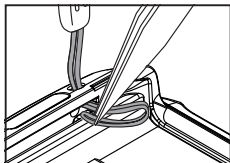
お使いになる前に



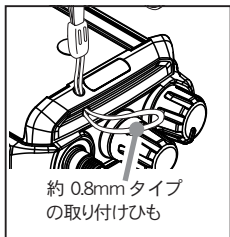
注意

- ハンドストラップの取り付けひもを取り付け穴に通しにくい場合は、ピンセット等で取り付けてください。

その際に、ピンセットの先端で指を刺したり、トランシーバーのケースにキズを付けたりしないよう、十分注意して取り付けてください。



- 先端の取り付けひもは約 0.8mm タイプの丈夫なストラップを取り付けてください。また、粗悪なハンドストラップを取り付けると、ひもが切れて落下し故障やケガの原因になります。



お使いになる前に

リチウムイオン電池パックについて

リチウムイオン電池パック（以下「電池パック」と表します）は、使い切らずに継ぎ足し充電が可能な電池パックです。運用する時は満充電にしてからご使用ください。なお、満充電の状態で再度充電をすると過充電となり電池の寿命を短くする原因になりますのでご注意ください。

電池パックの使用条件

◎ 周囲温度が $-20^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$ の範囲内で使用してください。

電池パックの保存方法

- ◎ 周囲温度が $-20^{\circ}\text{C} \sim +35^{\circ}\text{C}$ の、腐食ガスのない湿度の低い乾燥した場所で保存してください。
- ◎ 高温の場所で保存すると、劣化の進行を早めることがあります。なるべく低温状態で保管してください。
- ◎ 長期間放置 / 保管するときは、次のことを守ってください。
 - ・トランシーバーから電池パックを外す。
 - ・満充電または完全に使い切った状態にしない。
 - ・満充電にした状態からディスプレイに （電池残量が約 50%）が表示されるまで使用してから保管する。
 - ・長期間放置 / 保管後は電池容量が低下していることがあるので、必ず充電してから使用する。
 - ・過放電を防止するために、半年に一回、補充電（50%程度）をする。

電池パックの特性について

- ◎ 過充電 / 過放電などの無理な条件が重なると寿命が短くなります。
- ◎ 電池パックは消耗品です。充放電を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります。
- ◎ 満充電にしても持続時間が短くなってきたときは電池パックの寿命ですので、早めに新しい電池パックをお買い求めください。

電池パックのお手入れ

- ◎ 側面のプラス端子とマイナス端子及び背面の充電端子を定期的な綿棒等で拭いてください。
- ◎ ケースが汚れた場合には、シンナーやベンジンなどを使わず、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

使用済みの取り扱い

- ◎ 前面のプラス端子とマイナス端子及び背面の充電端子をテープ等で絶縁してください。
- ◎ 電池パックを分解しないでください。
- ◎ 電池パックはリサイクルできます。
電池パックが不要になった場合は廃棄せずに、全国のリサイクル協力店、協力自治体、リサイクル協力事業者にご相談ください。



お
使
い
に
な
る
前
に

電池パックの持続時間

電池持続時間は常温 / 常湿において「送信出力 5W 時、送信 5:受信 5:待ち受け 90」の測定条件になります。周囲の温度により使用できる時間は異なります(極端な高温または低温の場所は使用時間が短くなります)。

電池パック	スーパーセーブ機能 OFF 時	スーパーセーブ機能 ON 時
FNB-V145Li (構成品)	約 13 時間	約 16 時間
FNB-V144Li (オプション)	約 8 時間	約 9.5 時間

電池パックの取り付け / 取り外し

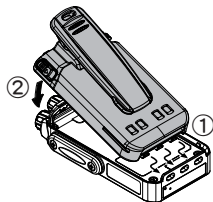
電池パックを取り付ける

- ① 本機の背面下部にある凹み部分に、電池パックの突起部分を差し込みます。
- ② 電池パックの上面にある左右のロックを「カチッ」と音がするまで押しこみます。



注意

電池パックが確実に取り付けられていないと、落下事故や故障の原因になります。



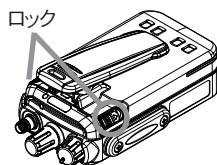
電池パックを取り外す

電池パックの上部左右にあるロックを刻印の矢印方向▼に下げながら、電池パックを外します。



注意

ロックを外す時は、指や爪などを傷めないよう、十分に注意してください。



お使いになる前に

電池パックの充電方法

付属の卓上充電器セットで電池パックを充電します（充電時間下表参照）。

電池パックの充電時間		
LED インジケーター	FNB-V145Li（構成品）	FNB-V144Li（オプション）
90% 充電（緑色点滅）	約 150 分	約 90 分
充電完了（緑点点灯）	約 180 分	約 120 分

補足 電池パックをお買い上げいただいたとき、または長い間使用しなかったときは、充電してからお使いください。

お使いになる時のご注意

- ◎ 専用の AC アダプタ以外の電源は絶対に使用しないでください。
- ◎ 卓上充電器セットは充電機能のみで、外部電源としての機能はありません。
- ◎ 充電は、周囲の温度が“+5℃～+35℃”の場所で行ってください。
- ◎ 規定の充電時間以上経っても充電が完了しない場合は、すぐに充電を終了してください。電池パックの寿命です。新しい電池パックに交換してください。
- ◎ 充電中にチャージャースタンドや AC アダプタが発熱する場合がありますが故障ではありません。
- ◎ 充電中にテレビやラジオにノイズが入ることがあります。できるだけ離してください。

充電器（チャージャースタンド）の LED インジケーター

赤色点灯	急速充電中
赤色点滅	充電エラー（電池パックの誤挿入、不良電池パック、過充電など）
緑色点灯	充電完了
緑色点滅	90%充電（もう少しで充電が完了します）
緑色点滅 （1 回）	CD-70 に PA-55A から電源が供給されたとき。
橙色点滅	予備充電（以下の原因が考えられます） 1. 電池パックの電圧が低下している場合（新品または空の電池パックの使用時など） 予備充電が終わると急速充電モードに移行します。 数分後に赤色点滅に切り替わる場合には、電池パックの抜き差しを行って充電動作のリセットを行ってください。 （数回のリセット操作を行っても改善しない場合には、電池パックの交換を行ってください。） 2. 電池パックが充電温度範囲外である場合（低温、発熱、など） 上記の問題が解決されると、急速充電モードに移行します。

使用方法

1. CD-70 の背面にあるジャックに AC アダプタ “PA-55A” のコネクタを差し込み、電源プラグを “AC 100V” のコンセントに差し込みます。

補足

電源プラグをコンセントに差し込むと、LED インジケーターが緑色に 1 回点滅します。

2. 電池パックを装着したトランシーバーの電源を切り、トランシーバー（または電池パック単体）を CD-70 の充電口に差し込みます。

補足

電池パックの溝を充電口のガイドレールに合わせて差し込みます。



注意

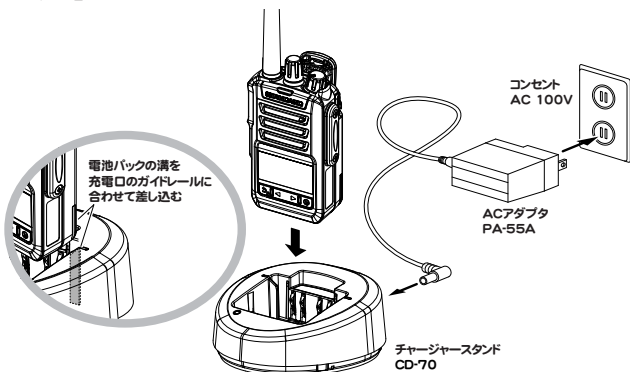
電池パックを単体で充電するときは、電池パックの電極が側面に露出しますので、金属片などが触れてショートすることが無いよう十分にご注意ください。

3. トランシーバー（または電池パック単体）が正しく差し込まれると LED インジケーターが赤色に点灯し充電を開始します。
4. 90%充電になると LED インジケーターが緑色に点滅し、充電が完了すると緑色に点灯します（充電時間は電池パックにより異なります）。

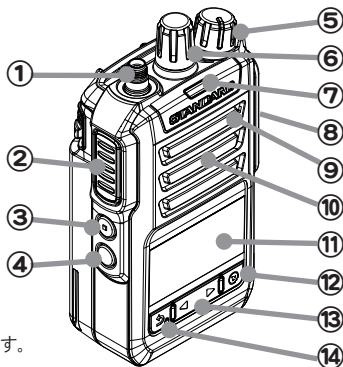


注意

充電完了後は速やかに電池パックを CD-70 から取り外してください。そのまま長時間充電を続けると、電池パックを劣化させる可能性があります。



各部の名称と機能



① アンテナ端子

付属のアンテナを接続します。

② PTT スイッチ (PTT)

押している間は通話、放すと待ち受けの状態になります。

③ プログラム 1 キー (P)

希望の機能を割り付けることができます。

補足

初期値は、短押しで受信音声の録音機能の開始 / 停止 (p.50 参照)、長押しの割り付けはありません。

④ プログラム 2 キー (O)

希望の機能を割り付けることができます。

補足

初期値は、短押しでスキャン機能の開始 / 停止 (p.56 参照)、長押しでバックライト機能が動作します (p.59 参照)。

⑤ 電源スイッチ / 音量調節ツマミ (P)

右へまわすと電源が入り、更にまわすと音量の調節になります。
カチツと音がするまで左へまわし切ると電源が切れます。

⑥ ロータリースイッチ (P)

チャンネルを選択するときにまわします。

⑦ LED インジケータ

受信中は通信方式により“緑色”“水色”“青色”または“白色”に点滅します。
送信中は“赤色”または“青色”に点灯します。
バッテリー消耗時は、“赤色”で点滅します。

⑧ MIC/SP 端子

MIC/SP 端子カバーを外して、スピーカーマイク等のオプションを接続します。

各部の名称と機能

- ⑨ マイク
⑩ スピーカー
⑪ ディスプレイ



◀ アイコン表示部

◀ チャンネル / 呼び先等表示

アイコン	アイコン説明	ページ
	アンテナ（電界強度表示 / 送信出力表示）	22
	受信時：受信している電波の強さに応じて4段階で表示します。	23
	送信時：送信出力別に 5W 、2.5W 、1W が点灯します。	67
	秘話：秘話機能が動作中に点灯します。	36
	メッセージ：メッセージ送信中 / 受信中に点滅します。	44
	VOX（ボックス）：VOX 機能が動作中に点灯します。	54
	セミ VOX オペレーション時は が点灯します。	55
	録音メモ：音声メモ機能が録音待機中、及び録音中に点灯します。	50
	キーロック：キーロック機能が動作中に点灯します。	24
	スキャン：スキャンチャンネルが登録 / 動作中に点灯します。	56
	スキャン動作中に受信したチャンネルで点滅します。	
	電池パック残量：電池パックの残量を5段階で表示します。 （点滅） とLEDインジケーター（赤色）が点滅し警告音が「ピピッ」と鳴った時は、直ちに充電を行ってください。	64

各部の
名称と
機能

⑫ 選択 / 機能キー ()

短く押すと簡易リスト (p.26 参照) を表示します。

押しながら電源を入ると拡張モードに移行します (p.28, 30, 33 参照)。

⑬ 左右選択キー ()

簡易リストや拡張機能等で、左右選択キーとして動作します。

設定項目で数字が3桁以上の場合、「桁」選択キーとして動作します。

⑭ 戻るキー ()

簡易リストや拡張機能等で、一つ上の階層に戻します。設定変更中に押すと、変更を確定しないで変更前の表示に戻ります。

チャンネル表示画面で1秒以上押すとキーロックになり、再度約1秒以上押すと解除されます (p.24 参照)。

デジタル簡易無線局について

デジタル簡易無線の登録局は、下表のように分類されています。

種別	ARIB 種別コード	周波数	チャンネル数	使用範囲
登録局	3R	351MHz	30	陸上及び日本周辺海域
登録局 (上空利用)	3S		5	陸上及び日本周辺海域 並びにそれらの上空

補足

本機は種別コード「3R」の「登録局」として開発されたもので、スカイスポーツ等、上空でのご利用はできません。

チャンネル構成とコールチャンネル (ARIB 種別コード: 3R)

チャンネル構成

“- CH01 -” ~ “- CH30 -” の 30 チャンネルが利用可能です。

コールチャンネル

“- CALL -” は「コールチャンネル」に設定されています。

補足

- コールチャンネルでは、ユーザーコードは自動的に“000”に設定され、秘話は自動的に解除されますので、ARIB 規格で定めている「呼出用チャンネル」として、ご利用いただけます。
- コールチャンネルは一時的な呼び出しのみに使用し、継続的な通話は他のチャンネルで行うようにしてください。
- コールチャンネルでは、ユーザーコードおよび、秘話の設定はできません。

受信専用上空用チャンネルモニター (p.70 参照)

上空用チャンネル (1~5チャンネル) をモニターすることができます。

通信方式

本機では、下記の二通りの通信方式で運用することができます。

補足

工場出荷時は UC (ユーザーコード) 通信に設定されていますので、通信相手と同じ通信方式に設定してからご使用ください。

UC (ユーザーコード) 通信 (p.34 参照)

同じチャンネルで、同じ UC (ユーザーコード) を設定している者同士が通話できる通信方式です。

個別通信 (p.38 参照)

同じチャンネルで、同じ UC (ユーザーコード) を設定している者同士の中で、特定の相手やグループだけを呼び出して通話できる通信方式です。

デジタル簡易無線局について

通信時に動作する機能に関して

キャリアセンス機能

基準値以上の強さの電波を受信している場合は、混信を防止するために、送信を禁止する機能です。

送信禁止時はディスプレイに“Wait”が表示され、「ピピッ...」と警告音を発し送信することができなくなります。受信を示すLEDインジケーターが消えてから再度送信を開始してください。

本機は、デジタル簡易トランシーバー登録局としてキャリアセンス機能を搭載しており、電波法および ARIB 規格により、送信ごとにキャリアセンス機能が動作します。

補足

- “Wait”表示が出た後にPTTスイッチをもう一度押した場合、受信電波がなくなり次第ピープ音でお知らせする CH 空き通知機能が搭載されています (p.65 参照)。
- 大規模なイベントではデジタル簡易無線の使用頻度が高く、チャンネルが大変混み合っている場合があります。本機には、こうした状況をできるかぎり緩和して、速やかに通信を行うことができる便利な機能が搭載されています。
 - スキャン PTT による自動チャンネル選択機能 (p.58 参照)

LED インジケーターによる通話状態の表示

本機は、動作状態を視覚的にわかりやすくお使いいただくために、三原色の LED を使用し、動作状態を以下のように示します。

LED の色・状態	通信（動作）状況
緑色・点滅	UC 通信受信時、他局通信時
赤色・点滅	電池パック消耗時
赤色・点灯	UC 通信送信時、個別通信送信時
青色・点滅	秘話 UC 通信受信時、秘話個別通信受信時
青色・点灯	秘話 UC 通信送信時、秘話個別通信送信時
水色・点滅	個別通信受信時
水色・点灯	通話応答待ちの時（および不在着信時）
白色・点滅	緊急アラーム動作時及び緊急信号着信時

デジタル簡易無線局について

通話中の連続送信停止予告音（「ピピピ」音）

本機の連続送信時間は“5分”で、約4分 50 秒で「ピピピ」と予告音が鳴ります。送信中に「ピピピ」というピープ音が鳴った場合、速やかに通話を終了してください。送信を継続すると約 10 秒後に自動的に送信が止まり、通話が中断されます。なお、自動的に送信が中断された場合、その後1分間は送信することができません。

操作のしかた

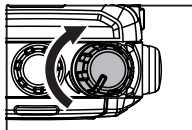
通話のしかた (UC通信機能) 基礎編

1. 電源を入れます。

電源スイッチを右にまわすと、電源が入ります。

補足

ディスプレイに起動画面が約1秒間表示され「ピポッ」とピープ音が鳴り、ディスプレイに現在のチャンネルが表示されます。



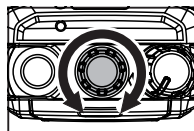
2. 音量を調節します。

音量調節ツマミを 10 ~ 11 時の位置にあわせておき、その後は相手の音声が最適な音量になるよう、音量調節ツマミで調節します。

3. ロータリースイッチをまわして、チャンネルをあわせます。

右へまわすとアップ方向に切り替わります。

左へまわすとダウン方向に切り替わります。



陸上波チャンネル

← -CH01- - -CH02- ... -CALL- ... -CH29- - -CH30- →
→ 上空-5 - 上空-4 - 上空-3 - 上空-2 - 上空-1 ←

上空波チャンネル (モニターのみ: p.70 参照)

補足

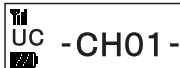
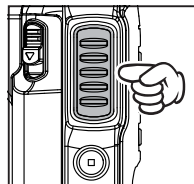
- CH01 - にあわせた時、「ポピピ」というピープ音が鳴りますので、トランシーバーを腰につけていた状態でも - CH01 - を確認することができます。

4. 送信 (通話) します。

PTT スイッチを押しながら、マイクに向かって話します。

送信中、LED インジケーターが赤色または青色に点灯し、ディスプレイに送信出力のアイコンメーター “” が表示します。

近距離で交信する場合は、セットモード “F08 送信出力の設定” を参照し、送信出力を “MD” または “LOW” に切り替えることもできます (p.67 参照)。



補足

- 送信開始直前には、混信を防ぐためキャリアセンス機能が自動的に動作します (p.21 参照)。
- マイクと口元の間隔は、5cm 位が適当で、普通の声で話します。
マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声割れたり、歪むことがあります。

注意

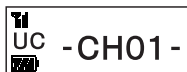
連続送信時間は 5 分以内と電波法で定められています。
本機では送信を開始してから約 4 分 50 秒後に「ピピピ」と警告音が鳴ります。5 分が経過する前に自動で送信が止まり、待ち受けの状態に戻ります。その後 1 分間は送信禁止状態になります。
警告音が鳴った際は、速やかに送信を中止してください。

5. 相手の音声を受信します。

PTT(通話) スイッチを放すと、相手の話を聞くことができます。

補足

信号を受信すると、LED インジケーターが点滅し、電波の強さに応じて、ディスプレイに電界強度のアイコンメーター “” が表示します (最大 4 本)。

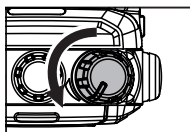


6. 電源を切ります。

電源スイッチを「カチッ」と音がするまで左にまわし切ると、電源が切れます。

補足

一週間以上使用しない場合は、電池パックが消耗しないように、トランシーバーの電源を切り、トランシーバーから電池パックを外してください。



操作の
しかた

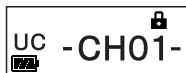
操作のしかた

キーロック機能 基礎編

誤って各キーを押したりロータリースイッチをまわしても、設定が変わらないようにする機能です。

 を長押しします。

ディスプレイに “ ” が点灯し、キーロック機能が動作します。



補足

- キーロックが動作中に各キーを押すと、ピープ音が鳴ると同時に “- LOCK -” が表示され、ロック中であることを知らせます。
- 初期値は KEY+ロータリーに設定されています（下記参照）。

キーロック機能を解除する：

 を長押しします。

キーロック機能が解除され、ディスプレイの “ ” 表示が消えます。

キーロックの条件を変更

拡張機能のセットモード “F04 キーロック” で、キーロック機能を動作させたときのロック条件を設定することができます（p.30 参照）。

1.  押しながら  電源を入れる（拡張機能）
2.   （） “セットモード” 選択  
3.   （） “F04 キーロック” 選択  
4.   （） 希望のロックに選択  

セットモード	F04
←	キーロック
	KEY+ロータリー

KEY+ロータリー (初期値)	 、  （短押し）、  、  、  、  、  をロックします。
PTT	 をロックします。
KEY	 （短押し）、  、  、  、  、  をロックします。
ロータリー	 をロックします。
全て	 、  （短押し）、  、  、  、  、  、  をロックします。

5.  電源を切り、再度電源を入れる

各機能の設定

各機能を使用する場合は、簡易リストや拡張機能（コールモード、セットモード）から機能を選択します。

◎簡易リスト（26 ページ参照）

比較的使用頻度が高い機能をリストから選択し、簡単に設定することができます。

◎コールモード（28 ページ参照）

UC 通信、個別通信や秘話等の詳細設定を行うことができる拡張機能です。

◎セットモード（30 ページ参照）

一度設定すると変更する機会や使用頻度が少ない拡張機能です。

本機の機能説明は各ページを参照してください。

機能	ページ	機能	ページ
UC 通信機能 応用編	34	必要に応じて使う機能	61
秘話機能 応用編	36	ビープ音量調整	61
個別通信機能 応用編	38	ディスプレイのコントラスト調整	61
呼び出しのベル音回数設定 と自局情報の確認	41	マイクレベルの調整	62
個別通信に便利な機能	42	送信ビープと受信ビープ	63
緊急アラーム機能	45	信号が極端に弱くなると 知らせる機能	64
便利な機能	50	電池パックが消耗すると アラームで知らせる機能	64
録音メモ機能	50	チャンネルが空いたとき 通知する機能	65
リピート再生機能	52	オプションの電源供給	65
イコライザー機能	53	イヤホン / スピーカーマイク の特性補正	66
ノイズキャンセル機能	54	外部マイクロホンの取り付け	66
インテリジェント オーディオライト機能	54	送信出力の設定	67
セミ VOX オペレーション	54	適切なマイク感度に 自動調整する機能	67
VOX 機能	55	PTT ホールドタイプに変更する	68
スキャン機能	56	プログラムキーの設定を変更する	69
スキャン PTT	58	上空用チャンネルをモニターする	70
スキャン RX	58	電池パックの消耗を防ぐ	70
セカンダリ PTT	59	2 時間オフタイマー	71
バックライト	59	拡張機能の設定を初期値に戻す	71
音声案内	59		
ワンタッチで音量を下げる機能	60		

操作のしかた（簡易リスト）

簡易リスト

簡易リスト一覧

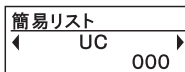
項 目		設定値（初期値太字）	機能	ページ
UC		000 ～ 511	ユーザーコードの設定	35
秘話		OFF /ON	秘話機能の設定	37
秘話コード		00001 ～ 32767	秘話コードの設定	37
リピート再生		－	自動で録音されている相手局の音声を再生	52
録音メモ		－	録音された音声の再生 / 消去	51
スキャン CH		CH01 ～ CH30/ALL CH	スキャンチャンネルの設定	56
RX イコライザー		OFF / 低域強調 / 高域強調	受信音の音質の設定	53
TX イコライザー		OFF / 低域強調 / 高域強調	送信音の音質の設定	53
ノイズキャンセル		OFF/ ON	ノイズキャンセル機能の設定	54
インテリ オーディオライト		OFF /ON	インテリジェントオーディオライト機能の設定	54
VOX		OFF /ON	VOX機能の設定	55
VOX 感度		レベル 00 ～ 08 ～ 15	VOX感度の設定	55
個別通信時の追加機能	アンサー バック	－	待ち受け画面に表示されている相手局と、交信できる状態かを確認する機能	42
	着信履歴	－	着信した信号の発信元を、新しい順に表示（最大 10 件）	43
	発信履歴	－	発信した信号の発信先を、新しい順に表示（最大 10 件）	43
	メッセージ 送信	－	あらかじめ登録されたメッセージ（最大 10 件）の送信機能	43
	メッセージ 確認	－	受信したメッセージの表示（最大 10 件）	43
自局情報		個別 ID/ グループ ID	個別 ID、グループ ID の表示	41

操作の
しかた

操作のしかた（簡易リスト）

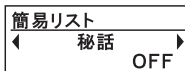
簡易リストの設定

1. 待ち受け画面で  を短押しすると、簡易リストを表示します。



2.   で希望の項目を選択します。

 でも選択できます。



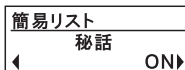
3.  を押して確定します。

4.   で希望の設定値を選択します。

 でも選択できます。

数字が 3 桁以上の場合、

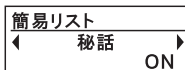
- ・   桁移動
- ・  (アップ)、 (ダウン) が可能



  を押すと一つ前の画面に戻ります。

5.  を押して確定します。

他の項目を選択する場合は、手順 4 ～手順 5 を繰り返し操作します。



6.  を押してチャンネル表示に戻します。

操作のしかた（拡張機能）

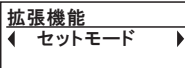
コールモード（拡張機能）

コールモード一覧

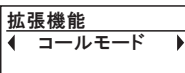
項目	設定値（初期値太字）	機能	ページ
C01 通信方式	UC 通信 / 個別通信	通信方式の選択	38
C02 UC モード	CH 共通 / CH 毎	UC を全てのチャンネルの適用チャンネル設定	35
C03 UC ベル	0 / 1 / 2 / 3 回	同一 UC 呼び出しビープ音の回数設定	-
C04 自局 ID	001 ~ 200	自局 ID の設定	38
C05 グループ ID	01 ~ 30	グループ ID の設定	38
C06 個別ベル	0 / 1 / 2 / 3 / 4 / 5 回	個別呼び出し時のビープ音の回数設定	41
C07 グループベル	0 / 1 / 2 / 3 回	グループ / 一斉呼び出し時のビープ音の回数設定	41
C08 緊急宛先	一斉 / 個別	緊急信号を送信する際の宛先設定	48
C09 緊急個別 ID	001 ~ 002 ~ 200	緊急を知らせたい相手局の ID 設定	49
C10 緊急応答宛先	一斉応答 / 緊急応答 / 個別応答	個別通信時の緊急着信時応答宛先 ID の選択	49
C11 秘話モード	CH 共通 / CH 毎	秘話コードの適用チャンネル設定	37

コールモードの設定

- 一度電源を切り、 を押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら  を放します。

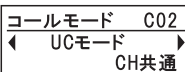


-   で“コールモード”を選択します。
 でも選択できます。



-  を押して確定します。

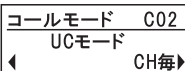
-   で希望の項目を選択します。
 でも選択できます。



例）右図のディスプレイ表示は“C02 UC モード”の設定で説明します。

-  を押して確定します。

-   で希望の設定値を選択します。
 でも選択できます。

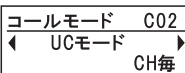


C04 自局ID、C09 緊急個別IDのID設定を行うときは、数字の桁移動、アップ、ダウン可能

- ・  桁移動
- ・ (アップ)、 (ダウン) が可能

-  を押して確定します。

次の項目を選択する場合は、手順4～手順7を繰り返し操作します。



- 電源を切るとコールモードの設定は終了します。

操作のしかた（拡張機能）

セットモード（拡張機能）

セットモード一覧

項目	設定値（初期値太字）	機能	ページ
F01 ビープレベル	レベル00 ~ 08 ~ 15	操作音（ビープ音）の音量設定	61
F02 外部マイク	-18/-12/-6/-3/ 0 / +3/+6/+10	外部マイクの感度設定	62
F03 内部マイク	-18/-12/-6/-3/ 0 / +3/+6/+10	本体内部マイクの感度設定	62
F04 キーロック	KEY +ロータリー / PTT/KEY/ ロータリー / 全て	ロック範囲の設定	24
F05 緊急モード	サイレント +ID 送信 / ID 送信 / アラーム / OFF / アラーム +ID 送信	緊急モードの動作設定	48
F06 TX ビープ	OFF / ON	送信開始時のビープ音設定	63
F07 RX ビープ	OFF / ON	相手局の送信終了音の設定	63
F08 送信出力	High / Mid / Low / 受信専用	送信出力の設定	67
F09 弱電界アラーム	OFF / ON	受信信号が極端に弱い場合に鳴るアラームの設定	64
F10 不在着信ベル	OFF / 5秒毎×2 / 2秒毎 / 1分毎 / 連続	個別着信時に応答しなかった場合に鳴るベルの設定	-
F11 アンサーバック	OFF / ON	相手局に電波が届いているかを確認する機能の設定	42
F12 電池アラーム	OFF / ON	電池残量アイコン点滅と同時に鳴る警告音の ON / OFF	64
F13 ワンタッチボリューム	ミュート / -30 % / -60 %	[プログラム] キーに機能を割り付けたときの、音量減衰量の設定	60
F14 CH 空き通知	OFF / ON	チャンネルの空き通知の設定	65
F15 ACC電源	OFF / ON	オプションのユニットへの電源供給の設定	65

操作のしかた（拡張機能）

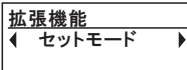
項目	設定値（初期値太字）	機能	ページ
F16 コントラスト	レベル 00 ～ 08 ～ 15	ディスプレイのコントラスト調整	61
F17 セミ VOX オペレーション	OFF /ON	PTT 短押しで送信開始、 音声入力が無くなると送信 終了する機能の設定	54
F18 VOX TX 保持時間	0 /0.2/0.5/1.0 秒	送信状態から受信状態に なるまでの時間設定	55
F19 TX AGC	OFF /ON	適切なマイク感度に自動調 整する機能の設定	67
F20 外部 アクセサリタイプ	OFF /イヤホン/ スピーカーマイク	イヤホン / スピーカーマイク の特性補正	66
F21 PTT ホールド	OFF /ON	PTT ホールド動作の設定	68
F22 上空 CH	OFF / モニタ	上空用チャンネルモニター の設定	70
F23 スキャンタイプ	プログラム / デュアルレシーブ	スキャン機能の設定	57
F24 スキャン PTT	通話 CH / 最終通話 CH/AUTO	スキャン機能の動作中の PTT 動作設定	58
F25 スキャン RX	OFF/ ON	スキャン機能の着信後のス キャン再開設定	58
F26 スーパーセーブ	OFF /ON	電池パックの持ち時間セー ブ機能の設定	70
F27 プログラム 1 キー (短押し)	録音 / スキャン / 音声案内 / バックライト / ワンタッチボリューム / セカンダリ PTT/OFF	プログラム 1 キー短押しの 機能割付け設定	69
F28 プログラム 1 キー (長押し)	録音 / スキャン / 音声案内 / バックライト / ワンタッチボリューム / OFF	プログラム 1 キー長押しの 機能割付け設定	69
F29 プログラム 2 キー (短押し)	録音 / スキャン / 音声案内 / バックライト / ワンタッチボリューム /OFF	プログラム 2 キー短押しの 機能割付け設定	69
F30 プログラム 2 キー (長押し)	録音 / スキャン / 音声案内 / バックライト / ワンタッチボリューム / 緊急 / OFF	プログラム 2 キー長押しの 機能割付け設定	69
F31 自動電源 OFF	OFF / ON	電源切り忘れ防止機能の 設定	71
F32 設定リセット	実行 / キャンセル	拡張機能の各設定の初期 化	71

操作の
しかた

操作のしかた（拡張機能）

セットモードの設定

1. 一度電源を切り、 を押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら  を放します。



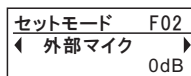
2. “セットモード” が表示されているか確認します。

3.  を押して確定します。

4.   で希望の項目を選択します。

 でも選択できます。

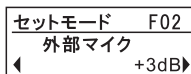
例) 右図のディスプレイ表示は“F02 外部マイク”の設定で説明します。



5.  を押して確定します。

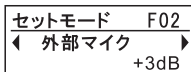
6.   で希望の設定値を選択します。

 でも選択できます。



7.  を押して確定します。

次の項目を選択する場合は、手順 4～手順 7 を繰り返し操作します。



8. 電源を切るとセットモードの設定は終了します。

操作のしかた（拡張機能）

管理番号表示（拡張機能）

管理番号表示一覧

販売店および営業所サービス確認用画面で、CSMコードとシリアル番号を表示します。

項目	初期値	設定値	機能
S01 CSMコード	—	—	販売店および営業所サービス確認用
S02 シリアル番号	—	—	販売店および営業所サービス確認用

管理番号表示の設定

1. 一度電源を切り、 を押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら  を放します。

拡張機能

◀ セットモード ▶

2.   で“管理番号表示”を選択します。
 でも選択できます。

拡張機能

◀ 管理番号表示 ▶

3.  を押して確定します。

4.   で希望の項目を選択します。
 でも選択できます。

管理番号表示 S02

◀ シリアル番号 ▶

XXXXXXXXXX

5. 電源を切ると管理番号表示は終了します。

操作の
しかた

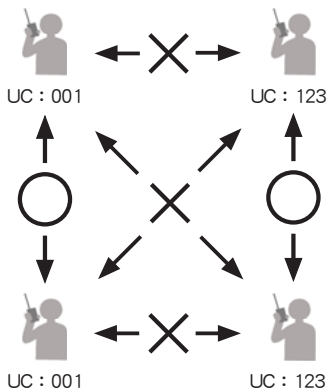
操作のしかた (UC通信機能)

ユーザー同士で交信したい (UC通信機能) 応用編

UC (ユーザーコード) 通信とは

同じチャンネルで、同じユーザーコードを設定しているユーザー同士が通話できる方式 (UC 通信方式) です。

ユーザーコードは初期値の状態で共通ユーザーコード“000”に設定されています。この状態では他局がユーザーコードを変更していても秘話通信を除く全ての UC 通信を受信することができます。ユーザーコードを“000”以外に変更することで、ユーザーコードが一致した局のみと交信することができます。



補足

- ユーザーコードは、3桁の数字で構成されていて、“000”～“511”の間で決めることができます。
- ユーザーコード“000”は、共通ユーザーコードとして扱われ、受信時はコードが異なる信号も受信できますが、送信時は“000”を設定している相手としか通信することができません。
- UC 通信方式は、ARIB 規格で規定されており、種別コード 3R の他社製デジタル簡易トランシーバーと通話互換があります。

注意

- チャンネルが“CALL” (CH15) のときは、ユーザーコードの設定はできません。ユーザーコードを設定する場合は、他のチャンネルに切り替えて設定してください。

操作のしかた (UC通信機能)

UC の設定

1.  を短押しで、簡易リストの UC を表示します。

簡易リスト	
◀	UC 000 ▶

2.  を押します。

3.  で希望の UC を選択します。

設定できるユーザーコードは“000”～“511”です。

簡易リスト	
◀	UC 123 ▶

- ・   桁移動
- ・  数字がアップ、 数字がダウン
- ・  キャンセル

補足

- 初期値は“000”が設定されています。
- 初期値は、全てのチャンネルで共通のユーザーコードになりますが、コールモード“C02 UC モード”により“CH 毎”に設定すると、チャンネルごとにユーザーコードを設定することができます。

4.  を押して確定します。

5.  を押してチャンネル表示に戻します。

または、 を押すとチャンネル表示に戻り送信することができます。

操作の
しかた

通話のしかた

基礎編の“通話のしかた”と同様に行います (p.22 参照)。

操作のしかた（秘話機能）

盗聴されにくい交信をしたい（秘話機能） 応用編

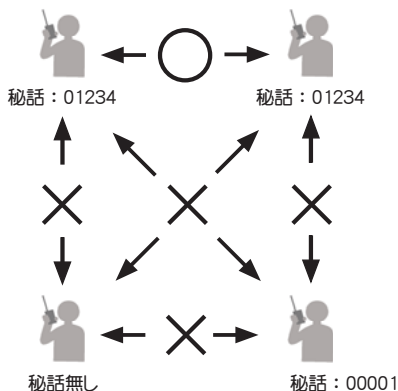
秘話とは

盗聴されるのを防止する機能です。秘話機能はUC 通信や個別通信どちらでも使用可能です。秘話機能を利用する際は、秘話コードの設定が必要です。

32,767 通りの秘話コードがあり、秘話コードが一致するトランシーバー同士のみ交信することができます。

初期値は、秘話コードが“00001”に設定されていますが、ご使用の際に通話セキュリティを十分に確保するためには、次ページの“秘話の設定”を参考に再設定することをお勧めします。

注意 チャンネルが“CALL”（CH15）のときは、秘話機能の設定はできません。秘話機能を設定する場合は、他のチャンネルに切り替えて設定してください。



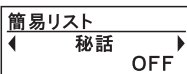
操作のしかた（秘話機能）

秘話の設定

1.  を短押しで、簡易リストを表示します。

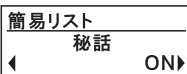


2.  を1回押し、“秘話”を選択します。
 でも選択できます。



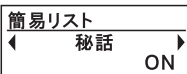
3.  を押して確定します。

4.  で“ON”に設定します。
 でも選択できます。



5.  を押して確定します。

6.  を1回押し、“秘話コード”を選択します。

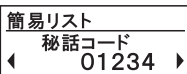


7.  を押してカーソルが点灯します。

8.  で希望の秘話コードを選択します。

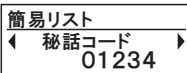
秘話コードは“00001”～“32767”です。

- ・   桁移動
- ・  数字がアップ、 数字がダウン
- ・  キャンセル



補足

- 初期値は“00001”が設定されています。
- 初期値は、全てのチャンネルで共通の秘話コードになりますが、コールモード“C11 秘話モード”により“CH 毎”に設定すると、チャンネルごとに秘話コードを設定することができます。

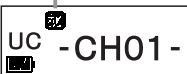


9.  を押して確定します。

秘話のアイコンが表示

10.  を押してチャンネル表示に戻します。

または、 を押すとチャンネル表示に戻り送信することができます。



操作の
しかた

通話のしかた

基礎編の“通話のしかた”と同様に行います（p.22 参照）。

操作のしかた（個別通信機能）

個別に呼び出したい（個別通信機能） 応用編

個別通信とは

特定の相手局だけを呼び出したり、自局と同じグループの呼び出しやグループに関係なく一斉に呼び出して通話することができます。

個別通信を行う前の準備

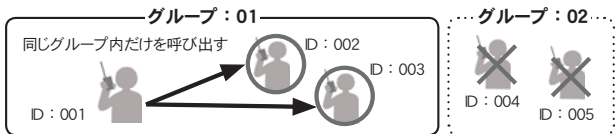
- ◎ コールモード“C01 通信方式”を“個別通信”に設定します (p.28 参照)。
- ◎ コールモード“C04 自局ID”で“001～200”から、各トランシーバーに違うIDを設定します (p.28 参照)。
- ◎ コールモード“C05 グループID”で“01～30”から、自局グループのIDを設定します (p.28 参照)。
- ◎ 全員が同じチャンネルに設定します。
- ◎ 簡易リスト“UC”で全員が同じユーザーコードに設定します (p.26, 35 参照)。
- ◎ 秘話機能を使用する場合は、簡易リスト“秘話”を“ON”に設定し、“秘話コード”で全員が同じ秘話コードに設定します (p.26, 37 参照)。

特定の相手局だけを呼び出す（個別）

“個別：002”に設定し、
ID：002を呼び出す



自局と同じグループだけを呼び出す（グループ）



一斉に呼び出す（一斉）



操作のしかた（個別通信機能）

呼び出しを行う

待ち受けの状態では  を長押しすると個別呼び出しの“宛先選択画面”へ移行します。操作手順は、下記の手順 A ～ C を参照してください。

宛先選択画面項目	機能
個別	特定の相手だけ呼び出す
グループ	自局と同じグループだけを呼び出す
一斉	一斉に呼び出す

手順 A) 特定の相手だけ呼び出す

相手局の個別 ID を設定して呼び出します。

-  長押し（宛先選択）
-   “個別” を選択 
-   ID の桁を移動（点滅がカーソルの位置）
-  アップ、 ダウン、または  呼び出したい個別 ID を選択 
-  呼び出します
- さらに他の局を呼び出すには、

  短押しで、手順 3 ～ 5 を行います。

宛先選択

◀ 個別：100 ▶
確定

個別

002

点滅がカーソルの位置

手順 B) 自局と同じグループだけを呼び出す

同じグループ内に属する全員を呼び出します。

-  長押し（宛先選択）
-   “グループ” を選択 
-  呼び出します

補足

コールモード“C05 グループ”IDで、呼び出したいグループIDに変更することで、他のグループを呼び出すことができます。

宛先選択

◀ グループ：01 ▶
確定

グループ

01

操作の
しかた

手順 C) 一斉に呼び出す

グループに関係なく一斉に呼び出します。

-  長押し（宛先選択）
-   “一斉” を選択 
-  呼び出します

宛先選択

◀ 一斉 ▶
確定

一斉

ALL

操作のしかた（個別通信機能）

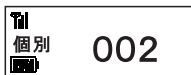
呼び出しを受けたとき

個別通信で呼び出しを受けると、ピープ音（着信ベル）やLED インジケータの点滅（不在着信機能）により呼び出しがあったことを知らせます。

個別通信によるLED インジケータの表示は、「LED インジケータによる通話状態の表示」（p.21 参照）を参照してください。

特定の相手から呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、呼び出してきた相手局のIDが表示され、スピーカーからピープ音が一回鳴り（C06 個別ベルでベルの回数を変更可能：p.41 参照）、受信中はLED インジケータが水色に点滅します。



不在着信の場合：

その後、呼び出してきた相手局のIDが点滅表示され、LED インジケータが水色に点灯したままになります（不在着信機能）。



相手局のIDが点滅

応答する場合：

PTTを押すと相手を呼び出します。

不在着信状態をキャンセルする場合：

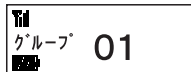
任意のキーを短押しします。

補足 スキャン機能動作中で“F 24：スキャンRX”が“ON”の場合は、不在着信機能は動作しません。

グループ呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、呼び出されたグループのIDが表示され、受信中はLED インジケータが水色に点滅し、通話応答待ち受け時は点灯します。

約5秒間放置すると元の画面に戻ります。



一斉呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、一斉呼び出しを示す“ALL”が表示され、受信中はLED インジケータが水色に点滅し、通話応答待ち受け時は点灯します。

約5秒間放置すると元の画面に戻ります。



操作のしかた（個別通信機能）

呼び出しのベル音回数設定と自局情報の確認

個別呼び出しのベル音回数設定（個別ベル）

個別呼び出しを受けた時に鳴るピープ音（着信ベル）の回数を、変更することができます。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. （）“コールモード” 選択
3. （）“C06 個別ベル” 選択
4. （）希望の回数に選択

コールモード	C06
◀ 個別ベル ▶	
	1回

0/1/2/3/4/5 回（初期値：1 回）

個別呼び出し時のピープ音の回数設定

5. 電源を切り、再度電源を入れる

グループ呼び出しのベル音回数設定（グループベル）

グループ呼び出しを受けた時に鳴るピープ音（着信ベル）の回数を、変更することができます。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. （）“コールモード” 選択
3. （）“C07 グループベル” 選択
4. （）希望の回数に選択

コールモード	C07
◀ グループベル ▶	
	0回

0/1/2/3/4/5 回（初期値：0 回）

グループ呼び出し時のピープ音の回数設定

5. 電源を切り、再度電源を入れる

自局情報の確認（自局情報）

トランシーバーに設定している個別 ID、グループ ID を表示して確認することができます。

1. 短押し（簡易リスト）
2. （）“自局情報” 選択
3. ディスプレイに個別 ID とグループ ID を表示する
4. 自局情報を表示させる前の画面に戻る
5. 個別通信画面に戻る

簡易リスト	
◀ 自局情報 ▶	

自局情報	
個別ID= 001	
グループ= 01	

補足

“C01 通信方式” を“個別通信” に設定している場合、トランシーバーの電源を入れた際に、マークの下に自局 ID が表示されます。

操作の
しかた

操作のしかた（個別通信機能）

個別通信時に便利な機能

個別通信機能に設定すると、簡易リストに5つの項目が追加されます。

- ◎アンサーバック・・・待ち受け画面に表示されている局と交信可能か確認する
- ◎着信履歴・・・着信した履歴を確認する
- ◎発信履歴・・・発信した履歴を確認する
- ◎メッセージ送信・・・あらかじめ登録してあるメッセージを送信する
- ◎メッセージ確認・・・受信したメッセージを確認する

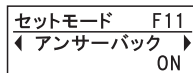
アンサーバック

特定の相手局と交信できる状態かを確認することができます。

アンサーバック機能の準備：

セットモード“F11 アンサーバック”を“ON”に設定してください。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F11 アンサーバック” 選択
4. () “ON” に選択
5. 電源を切り、再度電源を入れる



アンサーバックを使用する：

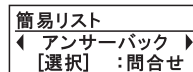
1. p.39の“特定の相手だけ呼び出す”を参考に、手順3、4で確認したい相手局の個別IDを設定する

2. 短押し（簡易リスト）
3. () “アンサーバック” 選択
相手に「問い合わせ」の信号を送出し、

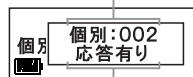
その後結果を表示する

応答有り	相手局と送信可能な状態です。
応答無し	「相手局の電源が入っていない」「距離が離れすぎている」などの原因で、相手局と交信できない状態です。

4. 個別通信画面に戻る

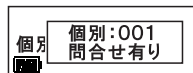


相手の個別ID



問合せ 応答中
応答有り（応答無し）の通信状態が表示される

問い合わせを受けると、“問い合わせ有り”と相手局に表示される



操作のしかた（個別通信機能）

着信履歴

これまでに着信した信号の発信元を、新しい順に最大 10 件まで履歴として残すことができます。

1. 短押し（簡易リスト）
2. () “着信履歴” 選択
3. () 着信履歴を選択
4. () “確定” / “削除” を選択

確定	表示中の相手局と通話するため、表示中の ID を表示し、個別通信画面に移行します。 で、着信履歴の ID に応答します。
削除	表示している発信履歴を削除します。 3. () で“履歴消去”を選択すると、全ての履歴を消去できます。

簡易リスト
◀ 着信履歴 ▶
10件

着信履歴	1/10
◀ コベツ 002 ▶	***

着信履歴	6/10
◀ コベツ 004 ▶	確定

5. 個別通信画面に戻る
(削除の場合、簡易リスト画面に戻る)

発信履歴

これまでに発信した信号の発信先を、新しい順に最大 10 件まで履歴として残すことができます。

1. 短押し（簡易リスト）
2. () “発信履歴” 選択
3. () 発信履歴を選択
4. () “確定” / “削除” を選択

確定	表示中の相手局と通話するため、表示中の ID を表示し、個別通信画面に移行します。 で、発信履歴の ID に応答します。
削除	表示している発信履歴を削除します。 3. () で“履歴消去”を選択すると、全ての履歴を消去できます。

簡易リスト
◀ 発信履歴 ▶
10件

発信履歴	1/10
◀ コベツ 003 ▶	***

発信履歴	4/10
◀ グループ 01 ▶	確定

5. 個別通信画面に戻る
(削除の場合、簡易リスト画面に戻る)

操作の
しかた

操作のしかた（個別通信機能）

メッセージ送信

メッセージを送信する：

あらかじめ登録されているメッセージ（10 件）を送信することができます。

受信中等でメッセージ送信ができない状態では、一旦メッセージを保存して待ち受け状態になったときに自動でメッセージを送信します。

- 宛先を指定する（p.39 参照）
- 短押し（簡易リスト）
- “メッセージ送信” 選択
- メッセージを選択

番号	メッセージ一覧	番号	メッセージ一覧
1	緊急事態が発生しました	6	集合してください
2	至急連絡願います	7	開始しました
3	運転中です	8	完了しました
4	出発しました	9	作業中です
5	到着しました	10	待機中です

簡易リスト
◀ メッセージ送信 ▶

メッセージ送信 1/10
◀ 緊急事態が発生し ▶

宛:コベツ002
完了しました
◀ 送信 ▶

個別
個別:002
応答有り

- メッセージを送信

相手局にメッセージ送信が完了すると、宛先と“応答有り”が表示されます。特定の相手だけを呼び出す個別呼び出しでは、電波が届かない、電源が切れている等で相手にメッセージが届かない場合は“応答無し”を表示します。

- 個別通信画面に戻る

メッセージを受信する：

メッセージを受信すると、ディスプレイに送り側の個別 ID を表示し、次に“”アイコンが点滅して、メッセージを表示します。

メッセージを確認後、 でメッセージを受信する前の状態に戻ります。

点滅

了解しました
受信

メッセージ確認

これまでに受信したメッセージを、新しい順に最大 10 件まで表示することができます。

- 短押し（簡易リスト）
- “メッセージ確認” 選択
- メッセージを選択
- （メッセージを削除する場合は ） 簡易リスト画面に戻る

簡易リスト
◀ メッセージ確認 ▶
05件

操作のしかた（個別通信機能）

緊急アラーム機能

緊急アラーム機能とは

緊急事態をアラーム音とLEDの表示で周囲に知らせたり、緊急信号を送出して一斉に知らせたり、個別IDを設定して特定の局のみに知らせることができる機能です。この機能は主に個別通信用の機能ですが、セットモード“F05 緊急モード”で“アラーム”を選択するとUC通信でも使用可能です（p.48 参照）。

“一斉に知らせる”、“個別に知らせる”“中継して知らせる”の操作手順は45～47ページを参照してください。

緊急を“一斉”で知らせる方法



緊急を一斉に知らせる方法の準備：

- ◎ セットモード“F30 プログラム 2 キー 長”を“緊急”に設定（p.69 参照）
- ◎ セットモード“F05 緊急モード”を“サイレント+D 送信”、“アラーム+D 送信”または“ID 送信”に設定（p.48 参照）
- ◎ コールモード“C08 緊急宛先”を“一斉”に設定（p.48 参照）
- ◎ コールモード“C10 緊急応答宛先”を“一斉応答”に設定（p.49 参照）
- ◎ 簡易リスト“UC”で同じユーザーコードに設定
- ◎ 全員が同じチャンネルに設定

緊急信号を送出する：

○を長押しします。

全員のトランシーバーに緊急信号を送出し、トランシーバーのキー操作はロックされます。LED インジケータが白色に点滅し、ディスプレイに“一斉 緊急”と表示します（“サイレント+D 送信”の場合は表示しません）。

PTTを押すと、緊急信号として通話することができます。

補足

緊急信号、およびその後のPTTによる緊急通話受信中、相手局側は“緊急”と表示されます。

緊急信号を受信する：

緊急信号を受信すると、ディスプレイに緊急信号を発信した局のIDを表示します。次にLED インジケータが白色で点滅して、約5秒後にピープ音が鳴り続けます。各キーを押すとピープ音が停止します。を押すと緊急受信状態が解除されます（ピープ・LED インジケータ・ディスプレイ表示が停止する）。その後、元の画面に戻ります。

PTTを押すと自動的に“一斉呼び出し”に切り替わり、通話することができます。

操作の
しかた

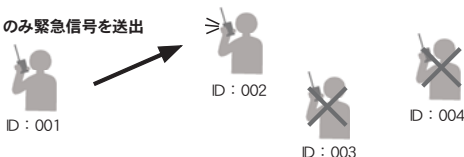
操作のしかた（個別通信機能）

緊急を“個別”で知らせる方法

緊急信号を特定の局のみに送出することができます。

例）個別 ID001 が個別 ID002 に緊急信号を送出する方法を説明します。

“個別 ID002”のみ緊急信号を送出



緊急を個別に知らせる方法の準備：

- ◎ セットモード“F30 プログラム 2 キー 長”を“緊急”に設定 (p.69 参照)
- ◎ セットモード“F05 緊急モード”を“サイレント+D 送信”、“アラーム+D 送信”または“ID 送信”に設定 (p.48 参照)
- ◎ コールモード“C08 緊急宛先”を“個別”に設定 (p.48 参照)
- ◎ コールモード“C09 緊急個別 ID”に例として“002”に設定 (p.49 参照)
- ◎ コールモード“C10 緊急応答宛先”を“個別応答”に設定 (p.49 参照)
- ◎ 簡易リスト“UC”で同じユーザーコードに設定
- ◎ ID : 002 が同じチャンネルに設定

緊急信号を送出する：

○を長押しします。

ID002 のトランシーバーに緊急信号を送出し、トランシーバーのキー操作はロックされます。

LED インジケータが白色に点滅し、ディスプレイに“個別 緊急”と表示します（“サイレント+D 送信”の場合は表示しません）。

[PTT]を押すと、通話することができます。

緊急信号を受信する：

緊急信号を受信すると、ディスプレイに緊急信号を発信した局の ID を表示します。次に LED インジケータが白色で点滅して、約 5 秒後にピープ音が鳴り続けます。各キーを押すとピープ音が停止します。**[5]**を押すと緊急受信状態が解除されます（ピープ・LED インジケータ・ディスプレイ表示が停止する）。

その後、元の画面に戻ります。

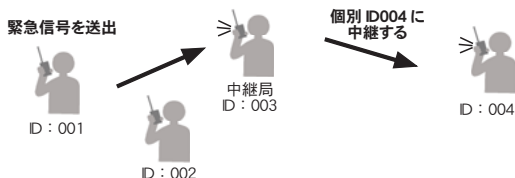
[PTT]を押すと自動的に“個別呼び出し”に切り替わり、通話することができます。

操作のしかた（個別通信機能）

緊急を中継して知らせる方法

緊急信号を直接届かない局に、中継して特定の局のみに転送することができます。

例) 緊急信号を個別 ID003（中継局）が個別 ID004 に中継する方法で、中継局の設定と転送方法を説明します。



受信した緊急信号を特定の局に転送する方法の準備：

中継局 ID003 の設定方法です。

- ◎ コールモード “C08 緊急宛先” を “個別” に設定 (p.48 参照)。
- ◎ コールモード “C09 緊急個別 ID” に例として “004” に設定 (p.49 参照)。
- ◎ コールモード “C10 緊急応答宛先” を “緊急応答” に設定 (p.49 参照)。
- ◎ 簡易リスト “UC” で同じユーザーコードに設定
- ◎ ID : 002、003、004 が同じチャンネルに設定

緊急信号を転送する：

緊急信号を受信時に **PTT** を短押しします。

緊急個別 ID に設定した相手局に緊急信号を転送します。

PTT を押すと、通話することができます。

転送された緊急信号を受信する：

緊急信号を受信すると、ディスプレイに緊急信号を発信した局の ID を表示します。次に LED インジケータが白色で点滅して、約 5 秒後にピープ音が鳴り続けます。各キーを押すとピープ音が停止します。**[5]** を押すと緊急受信状態が解除されます（ピープ・LED インジケータ・ディスプレイ表示が停止する）。

その後、元の画面に戻ります。すと自動的に “一斉呼び出し” に切り替わり、通話することができます。

操作の
しかた

操作のしかた（個別通信機能）

緊急アラーム機能の動作変更（F05 緊急モード）

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F05 緊急モード” 選択
4. () 希望の動作を選択

セットモード	F05
← 緊急モード	→
サイレント+ID送信	

機能	ディスプレイ表示	LED 点滅	アラーム	ID 送信	PTT 操作
サイレント + ID 送信 (初期値)	×	×	×	○	○
ID 送信	○	○	×	○	○
アラーム	○	○	○	×	×
アラーム + ID 送信	○	○	○	○	○
OFF	緊急アラーム機能は動作しません。				

5. 電源を切り、再度電源を入れる

緊急信号を送出する際の宛先設定（C08 緊急宛先）

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “コールモード” 選択
3. () “C08 緊急宛先” 選択
4. () 希望の動作を選択

コールモード	C08
← 緊急宛先	→
一斉	

一斉 (初期値)	同一ユーザーの全ての局に対し、一斉に緊急を知らせることができます。
個別	特定の局にだけ、緊急を知らせることができます。 緊急を知らせたい相手局の個別 ID は “C09 緊急個別 ID” で設定します。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

補足

本設定はセットモード “F05 緊急モード” を “アラーム + ID 送信”、 “サイレント + ID 送信”、 “ID 送信” に設定した時に動作する機能です。

操作のしかた（個別通信機能）

緊急を知らせたい相手局の個別 ID 設定（C09 緊急個別 ID）

コールモード“C08 緊急宛先”を“個別”に設定した場合、緊急を知らせたい相手の個別 ID を設定します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “コールモード” 選択
3. () “C09 緊急個別 ID” 選択
4. 希望の緊急個別 ID に選択動作を選択
 桁移動、
 アップ、 ダウン、または

コールモード	C09
← 緊急個別ID	→
	002

コールモード	C09
← 緊急個別ID	→
	002

カーソルが点滅

001 ~ 200 (初期値: 002)
自局 ID と同じ ID は設定できません。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

緊急着信時の応答先設定（C10 緊急応答宛先）

緊急アラーム機能の動作が“サイレント+D 送信”、“アラーム+D 送信”または“ID 送信”の場合に応答先を設定します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “コールモード” 選択
3. () “C10 緊急応答宛先” 選択
4. () 希望の動作を選択

コールモード	C10
← 緊急応答宛先	→
	一斉応答

一斉応答 (初期値)	宛先を「一斉」に切替えます。
緊急応答	C08 緊急宛先で設定している緊急宛先に切替え、緊急信号を送出します。
個別応答	宛先を相手局の「個別 ID」に切替えます。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

操作の
しかた

操作のしかた（便利な機能）

便利な機能

録音メモ機能

録音

ワンタッチで相手の音声を録音することができます。後で繰り返し内容を確認することができます。

補足

- ◎（プログラム 1 キー 短）には、あらかじめ初期値として“録音キー”を登録しています。登録の確認は必要に応じて使用する機能のプログラムキーを参照してください（p.69 参照）。

録音のしかた：

- ◎ を短押しします。

待ち受けの場合は待機状態となり、信号を受信すると録音を開始します。

受信中に ◎ を押すと、直ちに録音を開始します。

再び ◎ を押すと、録音の待ち受けを停止します。

注意

- すでに 5 件の録音がされている場合はを押しても録音されません。
- 連続で受信したときには、録音件数が 1 件になる場合があります。

補足

- 録音可能な時間には制限があり、1 件につき最大約 60 秒録音することができます。
- 件数は 5 件まで可能です。

1 件	2 件	3 件	4 件	5 件
-----	-----	-----	-----	-----

5 件まで録音可能（合計約 $5 \times 60 = 300$ 秒以内）

1 件：50 秒	2 件：20 秒	3 件：45 秒	4 件：5 秒	5 件：無し
----------	----------	----------	---------	--------

件数は 5 件まで

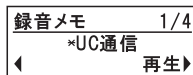
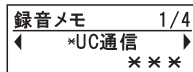
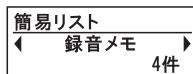
- 録音件数を超えた場合は、録音されませんので、不要となった録音メモは消去してください。

操作のしかた（便利な機能）

録音メモ

上記で録音した内容を再生 / 消去することができます。

1. 短押し（簡易リスト）
2. () “録音メモ” 選択
3. () 再生したい録音メモを選択 / 全消去を選択
4. 再生したい録音メモを選択した場合
5. () “再生” / “消去” 選択
6. “再生” 再生中に押すと“停止”



手順 3. で全消去を選択した場合



手順 5. で消去を選択した場合



操作の
しかた

操作のしかた（便利な機能）

リピート再生

トランシーバーの電源を入れると、自動的に相手の音声を録音する機能が開始します。通話内容を聞き逃した時などに、内容を確認することができます。

補足

- 最大 10 件まで録音されます。
1 件あたり、最大 60 秒まで録音されます。

1 件前	2 件前	3 件前	4 件前	5 件前	6 件前	7 件前	8 件前	9 件前	10 件前
------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------

10 件まで録音可能（1 件あたり、最大 60 秒）

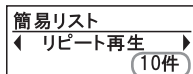
- 150 秒録音した場合、3 件分割されて録音されます。
新たに録音する場合は 4 件目から録音されます。

1 件（60 秒）	2 件（60 秒）	3 件（30 秒）
-----------	-----------	-----------

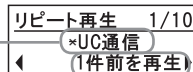
150 秒録音した場合、3 件分割されて録音される

- 10 件を超えて録音される場合は、古い件数の順から既に録音された内容に上書きされていきます。
- 電源を切ると、録音された内容は消去されます。

1. 短押し（簡易リスト）
2. （）“リピート再生”選択
3. （）再生音声の選択
4. 録音内容を再生
 再生中 “停止”



録音が無い場合は
“録音無し”と表示する



UC 通信の表示例：

個別通信の表示例：宛先が表示される

ALL の場合：ALL

個別 002 から応答録音の場合：コベツ 002

グループ 01 から応答録音の場合：グループ 01

1 件前を再生とは、「1 件目のリピートあり」を表す

を押すと 1 件前を再生

操作のしかた（便利な機能）

イコライザー機能

RX イコライザー

受信音を好みの音質に変更することができます。

1.  短押し（簡易リスト）
2.   () “RX イコライザー” 選択  
3.   () 希望の音質に選択  

簡易リスト
◀ RXイコライザー ▶
OFF

OFF / 低域強調 / 高域強調

4.  チャンネル表示に戻る

TX イコライザー

送信音を好みの音質に変更することができます。

1.  短押し（簡易リスト）
2.   () “TX イコライザー” 選択  
3.   () 希望の音質に選択  

簡易リスト
◀ TXイコライザー ▶
OFF

OFF / 低域強調 / 高域強調

4.  チャンネル表示に戻る

操作のしかた（便利な機能）

ノイズキャンセル機能

周囲の騒音を抑えて、明瞭な音声を送信する「ノイズキャンセル機能」を設定します。

1. 短押し（簡易リスト）
2. () “ノイズキャンセル” 選択
3. () “ON” / “OFF” 選択
4. チャンネル表示に戻る

簡易リスト
◀ ノイズキャンセル ▶
ON

インテリジェントオーディオライト機能

突然騒音が激しくなった時に受信音の音量をコントロールし、聴きやすい音量に自動調整します。

1. 短押し（簡易リスト）
2. () “インテリジェントオーディオライト” 選択
3. () “ON” / “OFF” 選択
4. チャンネル表示に戻る

簡易リスト
◀ インテリジェントオーディオライト ▶
OFF

セミ VOX オペレーション機能（F17 セミ VOX オペレーション）

オプションの外部マイクロホンやタイピンマイクを接続して使用する機能です（p.66 参照）。オプションの PTT スイッチを短押しで送信を開始し、話が終わり音声入力が無くなると自動的に待ち受けに戻ります。

1. “VOX 機能を使用する”（簡易リスト “VOX”）を “ON” にします
2. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
3. () “セットモード” 選択
4. () “F17 セミ VOX オペレーション” 選択
5. () “ON” 選択
6. 電源を切り、再度電源を入れる
7. ディスプレイに “” アイコンが点灯する
8. 外部マイクロホンの PTT スイッチを短押しすると “” アイコンに変わると共に、送信を開始する。
9. 話が終わると自動的に待ち受けになり “” アイコンに戻る

セットモード	F17
◀ セミVOXオペレーション ▶	OFF

補足 PTT スイッチを短押しした後に、適切な音声入力が無い場合は、送信を停止し無効ビープを鳴らして知らせます。

操作のしかた（便利な機能）

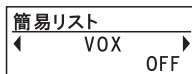
VOX 機能

オプションの外部マイクロホンやタイピンマイクを接続して使用する機能です（p.66 参照）。PTT スイッチを押さなくても、音声により送信 / 待ち受けを自動的に切り替えることができます。話すとき送信、話をやめると待ち受けの状態に戻ります。

VOX 機能を使用する

VOX 機能を使用するときは ON に設定します。

1. 短押し（簡易リスト）
2. () “VOX” 選択
3. () “ON” 選択
4. チャンネル表示に戻る
5. ディスプレイに “” アイコンが点灯する
6. オプションのマイクに向かって話をすると同時に送信を開始する
7. 話が終わると自動的に待ち受けに戻る



VOX の感度調整

送信状態になるときの感度を調整します。必要に応じて調整してください。

注意 周囲の雑音が大きく、話をしていないのに送信状態になる場合は、VOX 感度を下げて（数値を小さくする）大きめの音声で話をしてください。

1. 短押し（簡易リスト）
2. () “VOX 感度” 選択
3. () 希望の VOX 感度を選択

レベル 00・・・15（初期値：レベル 08）



調整中、音声入力レベルに応じて LED インジケーターが黄色に点灯します。

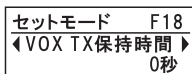
4. チャンネル表示に戻る

VOX TX 保持時間（F18 VOX TX 保持時間）

送信から待ち受けに戻るまでの時間を調整します。必要に応じて調整してください。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F18 VOX TX 保持時間” 選択
4. () 希望の時間を選択

0/0.2/0.5/1.0 秒（初期値：0 秒）



5. 電源を切り、再度電源を入れる

VXD30 取扱説明書

操作のしかた（便利な機能）

スキャン機能

スキャン機能にはプログラムスキャン機能とデュアルレシーブ機能があります。
プログラムスキャン機能は、スキャンしたい複数のチャンネル（スキャンチャンネル）をあらかじめ設定し、スキャンチャンネルと通話チャンネルを自動的に切り替えてモニターしながら待ち受けします（初期値：操作方法は下記参照）。
デュアルレシーブスキャン機能は、現在の通話チャンネルと事前に設定した一つのスキャンチャンネルを自動的に切り替えモニターしながら待ち受けします（p.57 参照）。

プログラムスキャン機能を使用する

プログラムチャンネルの登録：

1. セットモード“F23 スキャンタイプ”が“プログラム”に設定されているか確認する（p.57 参照）
2. 短押し（簡易リスト）
3. () “スキャン CH” 選択
4. () スキャンに登録 / 解除したいチャンネルを選択
5. () “ON” / “OFF” 選択
6. 他のチャンネルに登録する場合は、手順 3 ～ 5 を繰り返し設定する

簡易リスト
◀ スキャンCH ▶
※ ※ ※

スキャンCH
◀ -CH01- ▶
ON

7. チャンネル表示に戻る（スキャンチャンネルには“”が点灯）

スキャンを開始する：

○ 短押しする

ディスプレイに“”アイコンが点灯し、通話チャンネルと事前に登録したスキャンチャンネルをスキャンします。信号を受信するとスキャンは停止し“”を点滅します。ユーザーコードが000及びユーザーコードが一致している場合にスキャンが停止します。ユーザーコードが一致しない局が通話チャンネルまたはスキャンチャンネルで交信を続けている間は、LED インジケーターが緑色に点滅しますがスキャンは停止しません。



スキャン機能はあらかじめ“プログラム 2 キー短押し”に登録してあります。スキャン機能を他のプログラムキーに登録した場合は、登録したキーを押してください。

スキャンを終了する：

スキャン中に ○ 短押しする

操作のしかた（便利な機能）

デュアルレシーブ機能を使用する（F23 スキャンタイプ）

スキャンタイプの切り替え：

セットモード“F23 スキャンタイプ”を“デュアルレシーブ”に設定します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F23 スキャンタイプ” 選択
4. () デュアルレシーブに選択

セットモード	F23
◀ スキャンタイプ ▶	
デュアルレシーブ	

プログラム（初期値）	○ 短押しで、プログラムスキャン機能が動作します。
デュアルレシーブ	○ 短押しで、デュアルレシーブ機能が動作します。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

デュアルレシーブのスキャンチャンネル登録：

1. 短押し（簡易リスト）
2. () “スキャン CH” 選択
3. () スキャンしたい
チャンネルを選択

簡易リスト
◀ スキャンCH ▶
—CH01—

CH01・・・CH30、(上空-1・・・上空-5)
スキャンしたいチャンネルを選択します。

4. チャンネル表示に戻る（スキャンチャンネルには“”が点灯）

スキャンを開始する：

○ 短押しする

ディスプレイに“”アイコンが点灯し、通話チャンネルと事前に登録したスキャンチャンネルを交互にスキャンします。信号を受信するとスキャンは停止し“”を点滅します。ユーザーコードが000及びユーザーコードが一致している場合にスキャンが停止します。ユーザーコードが一致しない局が通話チャンネルまたはスキャンチャンネルで交信を続けている間は、LED インジケーターが緑色に点滅しますがスキャンは停止しません。

スキャンを再開する：

スキャン停止中にロータリースイッチを回すとスキャンを再開できます。

注意 スキャン機能はあらかじめ“プログラム 2 キー短押し”に登録してあります。スキャン機能を他のプログラムキーに登録した場合は、登録したキーを押してください。

スキャンを終了する：

スキャン中に ○ 短押しする

操作の
しかた

操作のしかた（便利な機能）

スキャン中に送信するチャンネルを設定する (F24 スキャン PTT)

スキャン中に **PTT** を押したときに送信するチャンネルを指定します。

1.  押しながら  電源を入れる (拡張機能)
2.   () “セットモード” 選択  
3.   () “f24 スキャン PTT” 選択  
4.   () 希望の動作を選択  

セットモード F24
◀ スキャンPTT ▶
通話CH

通話 CH (初期値)	通話チャンネルで送信します。
最終通話 CH	最後にスキャンで停止したチャンネルで送信します。
AUTO	プログラムスキャン機能使用中、スキャンチャンネルから空いているチャンネルを自動で探しだし送信します。 相手の信号が十分強い状態の中で使用してください。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

補足 スキャン PTT の応用例（自動チャンネル選択の運用）

PTT スキャンPTTをAUTOに設定し、例えばプログラムスキャンでスキャンチャンネルを1CHと4CHに設定後、通話チャンネルを7CHでスキャンを開始します。この設定では、スキャン中にトランシーバーのPTTを押すと通常は7CHで通話しますが、もし他局が7CHを使用していた場合、スキャンチャンネル1CHと4CHをスキャンし、いずれか空いているチャンネルで送信を開始します。つまり、この機能を使用することで、通常の待ち受けチャンネルが使用されている場合でも、他のスキャンチャンネルが空いていれば、そのチャンネルにて即座に交信を開始できます。

自動チャンネル選択を有効に使うためには：

- ・相手も同じスキャンチャンネルとユーザーコードを設定する。
- ・スキャンチャンネルを通話チャンネルと合わせて3チャンネル程度で運用する（音声の頭切れを防ぐため）。

スキャンの再開動作を設定する (F25 スキャン RX)

着信後、スキャンを再開させるかを設定します。

1.  押しながら  電源を入れる (拡張機能)
2.   () “セットモード” 選択  
3.   () “f25 スキャンRX” 選択  
4.   () 希望の動作を選択  

セットモード	F25
◀ スキャンRX ▶	ON

ON (初期値)	通話終了後“
----------	--------

5. 電源を切り、再度電源を入れる

操作のしかた（便利な機能）

セカンダリPTT（スキャンチャンネルのPTT 操作）

デュアルレシーブ中（p.57 参照）に  を押すと、登録したスキャンチャンネルで送信することができます。

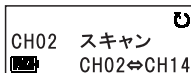
注意

- あらかじめセカンダリPTT 機能を“プログラム 1 キー短押し”（）に登録してください（p.69 参照）。
- セットモード“F24 スキャンPTT”を“通話 CH”に設定してください。

操作：

デュアルレシーブ中に、 を長押しする

通話中押し続け、放すと待ち受けの状態に戻ります。



補足

- スキャン RX が ON のときは、待ち受けから 5 秒後にスキャンを開始します。
- デュアルレシーブ中に  を押すと通話チャンネルで送信します。
- スキャンが停止し  が点滅中に  を押すと停止チャンネルで送信します。

↑
通話チャンネルで送信
PTT スイッチ（）

↑
スキャンチャンネルで送信
セカンダリPTT（）

バックライト

プログラムキーを押すと、ディスプレイのバックライトが 5 秒間点灯します。もう一度押すとバックライトは消灯します。

注意

- あらかじめバックライト機能を“プログラム 2 キー 長押し”（）に登録されています（p.69 参照）。

操作：

○ 長押しする

音声案内（ボイスチャンネルアナウンス）

現在のチャンネル番号を音声案内で確認することができます。

注意

- あらかじめ音声案内機能をプログラムキー（ または ）に登録してください（p.69 参照）。

操作：

登録したプログラムキーを押す

チャンネル番号を音声で読み上げます。

CH01 の場合は「いち」とアナウンスします。

操作の
しかた

操作のしかた（便利な機能）

ワンタッチで音量を下げる（F13 ワンタッチボリューム）

あらかじめ機能を割り付けたプログラムキー（ または ）を押すと、音量ツマミをまわさずにワンタッチで音量を一時的に下げることができます。もう一度キーを押すと解除されます。

補足

プログラムキーの割り付け方法は“プログラムキーの設定を変更する”を参照してください（p.69 参照）。

1.  押しながら  電源を入れる（拡張機能）

2.  （）“セットモード”選択  

3.  （）“F13ワンタッチボリューム”選択  

4.  （）希望の音量減衰量を選択  

セットモード	F13
◀ ワンタッチボリューム ▶	
	ミュート

ミュート（初期値）	プログラムキーを押したとき、音が出ない状態になります。
-30%	プログラムキーを押したとき、約 30%音量が下がります。
-60%	プログラムキーを押したとき、約 60%音量が下がります。

5.  電源を切り、再度電源を入れる

操作：

登録したプログラムキーを押す

ワンタッチで音量を一時的に下げることができます。
再度押すと、元の音量に戻ります。

操作のしかた（必要に応じて使う機能）

必要に応じて使う機能

ピープ音量調整（F01 ビープレベル）

音量調節ツマミの音量と連動していますが、ピープ音の音量のみ調整することができます。レベル 00 にするとピープ音は鳴らなくなり、レベル 15 にすると音量よりもピープ音が大きくなります。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. （）“セットモード” 選択
3. （）“F01 ビープレベル” 選択
4. （）希望のビープレベルを選択

セットモード	F01
← ビープレベル	→
レベル08	

レベル 00 ～ 15（初期値：08）

5. 電源を切り、再度電源を入れる

ディスプレイのコントラスト調整（F16 コントラスト）

ディスプレイのコントラスト（文字の濃度）を調整します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. （）“セットモード” 選択
3. （）“F16 コントラスト” 選択
4. （）希望のコントラストを選択

セットモード	F16
← コントラスト	→
レベル08	

レベル 00 ～ 15（初期値：08）

5. 電源を切り、再度電源を入れる

操作の
しかた

操作のしかた（必要に応じて使う機能）

マイクレベルの調整（F02、F03）

外部マイクの感度設定（F02 外部マイク）

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. （）“セットモード” 選択
3. （）“F02 外部マイク” 選択
4. （）希望のマイク感度を選択

セットモード	F02
外部マイク	
	0dB

-18/-12/-6/-3/0/+3/+6/+10（初期値：0）dB

5. 電源を切り、再度電源を入れる

内部マイクの感度設定（F03 内部マイク）

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. （）“セットモード” 選択
3. （）“F03 内部マイク” 選択
4. （）希望のマイク感度を選択

セットモード	F03
内部マイク	
	0dB

-18/-12/-6/-3/0/+3/+6/+10（初期値：0）dB

5. 電源を切り、再度電源を入れる

操作のしかた（必要に応じて使う機能）

送信 (TX) ビープと受信 (RX) ビープ (F06、F07)

送信開始時にビープが鳴る (F06 TX ビープ)

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F06 送信ビープ” 選択
4. () 希望の動作を選択

セットモード	F06
TXビープ	
	OFF

OFF (初期値)	機能は動作しません。
ON	送信を開始するとビープ音が鳴ります。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

通話が終了するとビープが鳴る (F07 RX ビープ)

受信中の通話が終了したことを知らせるビープ音の動作を設定します。個別通信時または、“000” 以外の同じユーザーコードに設定してある相手局の信号を受信した時のみ動作します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F07 受信ビープ” 選択
4. () 希望の動作を選択

セットモード	F07
RXビープ	
	OFF

OFF (初期値)	機能は動作しません。
ON	通話が終了するとビープ音が鳴ります。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

操作のしかた（必要に応じて使う機能）

信号が極端に弱くなると知らせる（F09 弱電界アラーム）

受信している信号が、極端に弱くなったことを知らせるアラーム音の動作を設定します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F09 弱電界アラーム” 選択
4. () 希望の動作を選択

セットモード	F09
◀ 弱電界アラーム ▶	
	OFF

OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	受信信号が極端に弱くなると、アラーム音が鳴ります。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

電池パックが消耗するとアラームで知らせる（F12 電池アラーム）

ピープ音により、バッテリーの残量が少なくなったことを知らせる機能の動作を設定します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F12 電池アラーム” 選択
4. () 希望の動作を選択

セットモード	F12
◀ 電池アラーム ▶	
	ON

OFF	機能は動作しません。
ON（初期値）	バッテリーの残量が少なくなると、2 分間隔でアラーム音が鳴ります。

5. 電源を切り、再度電源を入れる



アラームがなった際には、速やかに電池パックを交換または充電を行ってください。

操作のしかた（必要に応じて使う機能）

チャンネルが空いたとき通知する（F14 CH 空き通知）

使用したいチャンネルがすでに交信中で PTT を押したときに “Wait” 表示が出た場合、もう一度 PTT スイッチを短押しすると空き通知機能が動作し、その後チャンネルが空いた状態になるとピープ音で知らせます。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F14 CH 空き通知” 選択
4. () 希望の動作を選択

セットモード	F14
◀ CH 空き通知 ▶	
	OFF

OFF (初期値)	機能は動作しません。
ON	チャンネルが空くとピープ音で通知します。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

オプションの電源供給（F15 ACC 電源）

5V の電源を必要とするオプションを接続する場合、この機能を ON に設定します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F15 ACC 電源” 選択
4. () 希望の動作を選択

セットモード	F15
◀ ACC 電源 ▶	
	OFF

OFF (初期値)	機能は動作しません。
ON	MIC/SP 端子から、5V の電源を供給します。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

操作のしかた（必要に応じて使う機能）

イヤホン / スピーカマイクの特性補正 (F20 外部アクセサリタイプ)

オプションのイヤピース・イヤホンやスピーカマイクのスピーカオーディオ特性を最適な特性にするための機能です。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）

2. () “セットモード” 選択

3. () “F20 外部アクセサリタイプ” 選択

4. () 希望のオプションを選択

セットモード	F20
外部アクセサリタイプ	OFF

OFF（初期値）	機能は動作しません。
イヤホン※1	当社指定オプションのイヤホンを接続したときに最適な特性に補正します。
スピーカマイク※2	当社指定オプションのスピーカマイクロホンを接続したときに最適な特性に補正します。 注意：VOX 機能やセミ VOX 機能をスピーカマイクで使用する場合は、VOX 動作の誤送信を防止するため、必ず「スピーカマイク」を選択してください。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

補足

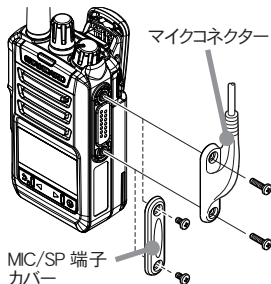
適合オプション（p.74 参照）

※1：EK-505W、EK-313-581、EM-01-581、ME101/100CM

※2：MH-66A7A、MH-82A7A、MH-83A7A、EK-404-581

外部マイクロホンの取り付け

MIC/SP 端子カバーのビスを外し、オプションに付属のビスを取り付けます。



補足

- MIC/SP 端子を時々乾いた布や綿棒で拭いてください。端子が汚れていると、接触不良になって、正しく使用できなくなります。
- オプションを接続しないときは、MIC/SP 端子カバーを取り付けてください。

操作のしかた（必要に応じて使う機能）

送信出力の設定（F08 送信出力）

送信出力（発射する電波の強さ）を“High”（5W）、“Mid”（2.5W）、“Low”（1W）から選択することができます。距離の近い相手と交信するときは、送信出力を“Mid”または“Low”に切り替えると電池パックの消耗を減らすことができます。また、本機を受信専用機として使用する場合は“受信専用”に設定してください。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. （）“セットモード”選択
3. （）“F08 送信出力”選択
4. （）希望の送信出力を選択

セットモード	F08
送信出力	High

High（初期値）	送信出力 5W、送信時ディスプレイに が点灯します。
Mid	送信出力 2.5W、送信時ディスプレイに が点灯します。
Low	送信出力 1W、送信時ディスプレイに が点灯します。
受信専用	PTT スイッチを押しても、送信しなくなります。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

適切なマイク感度に自動調整する（F19 TX AGC）

内部マイクを使用中、音声の大小に応じて自動で適切なマイク感度に調整します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. （）“セットモード”選択
3. （）“F19 TX AGC”選択
4. （）希望の動作を選択

セットモード	F19
TX AGC	OFF

OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	内部マイクを使用中、自動で適切なマイク感度に調整します。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

操作の
しかた

注意

- TX AGC が ON のときは、セットモード“F03 内部マイク”の設定値は無視されます。
- TX AGC は内部マイクのための機能で外部マイクでは動作しません。

操作のしかた（必要に応じて使う機能）

PTT をホールドタイプに変更する（F21 PTT ホールド）

初期値“OFF”は **PTT**（PTT スイッチ）を押している間のみ送信し、放すと待ち受けの状態になります。

“ON”に設定した場合、**PTT** を一度押すと送信状態のままになり、もう一度押すと待ち受けの状態に戻る“ホールド機能付き PTT スイッチ”として動作します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. （）“セットモード”選択
3. （）“F21 PTT ホールド”選択
4. （）希望の動作を選択

セットモード	F21
← PTTホールド →	
	OFF

OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	ホールド機能付き PTT スイッチとして動作します。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

補足

連続送信時間は 5 分以内と電波法で定められています。本機では送信を開始してから約 4 分 50 秒後に「ピピピ」と警告音が鳴ります。5 分が経過する前に自動で送信が止まり、待ち受けの状態に戻ります。その後 1 分間は送信禁止状態になります。警告音が鳴った際は、速やかに送信を中止してください。

注意

トランシーバー本体の PTT スイッチのみ PTT ホールド機能が動作します。外部マイクの PTT スイッチを押しても動作しません。なお、外部マイクを接続した状態でも、本体の PTT スイッチは PTT ホールド機能として動作します。

操作のしかた（必要に応じて使う機能）

プログラムキーの設定を変更する（F27～F30）

2つのプログラムキー（ または ）の機能を変更することができます。

補足 プログラム 1 キー：

プログラム 2 キー：

1.  押しながら  電源を入れる（拡張機能）
2.  （）“セットモード” 選択  
3.  （）“F27 プログラム 1 キー 短” ～
“F30 プログラム 2 キー 長” 選択  
4.  （）希望の機能を選択  

セットモード	F27
◀ プログラム1キー 短 ▶	録音

録音 (初期値：プログラム 1 キー 短押し)	ワンタッチで相手の音声を録音することができます。後で繰り返し内容を確認することができます (p.50 参照)。
スキャン (初期値：プログラム 2 キー 短押し)	現在の通話チャンネルと事前に設定したスキャンチャンネルを自動的に切り替えモニターしながら待受けができます (p.56 参照)。
音声案内	現在のチャンネル番号を音声案内で確認することができます (p.59 参照)。
バックライト (初期値：プログラム 2 キー 長押し)	キーを押すと、ディスプレイのバックライトが 5 秒間点灯します。もう一度押すとバックライトは消灯します (p.59 参照)。
ワンタッチボリューム	キーを押すと、音量ツマミをまわさずにワンタッチで音量を一時的に下げることができます。もう一度キーを押すと解除されます。(p.60 参照)。
セカンダリPTT (プログラム 1 キー 短押しのみ設定可能)	デュアルレシーブ中に、プログラムキーを押すと、登録したスキャンチャンネルで送信することができます (p.59 参照)。 注：セカンダリPTT を設定した場合、プログラム 1 キー長押し機能は無効となり設定できません。
緊急 (プログラム 2 キー 長押しのみ設定可能)	緊急事態をアラーム音とLEDの表示で周囲に知らせたり、緊急信号を送出して他の仲間に緊急を知らせることができる機能です (p.45 参照)。
OFF	機能は動作しません。

操作の
しかた

5.  電源を切り、再度電源を入れる

操作のしかた（必要に応じて使う機能）

上空用チャンネルをモニターする（F22 上空 CH）

上空用チャンネルをモニターすることができます。なお、本機では上空用チャンネルで送信することはできません。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F22 上空 CH” 選択
4. () 希望の動作を選択

セットモード	F22
← 上空CH	→
	OFF

OFF（初期値）	機能は動作しません。
モニタ	上空用チャンネルが追加され、モニターすることができます。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

補足

上空チャンネルを“モニタ”に設定した場合、上空チャンネルをスキャンチャンネルに選択すると、上空チャンネルをスキャンすることができます（p.56 参照）。

電池パックの消耗を防ぐ（F26 スーパーセーブ）

通常でもバッテリーセーブは動作していますが、このスーパーセーブはさらに強力なセーブ機能です。ONに設定すると、待ち受け状態で約2秒間キー操作がないと電池パックの消耗を防ぐセーブ機能が動作します。信号を受信時またはキー操作やチャンネル切り替えを行うとセーブ機能は解除されます。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F26 スーパーセーブ” 選択
4. () 希望の動作を選択

セットモード	F26
← スーパーセーブ	→
	OFF

OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	スーパーセーブ機能が動作し、通常よりもより一層電池パックの消耗を防ぎます。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

補足

- スーパーセーブ機能を“ON”に設定すると、PTTスイッチを押して送信を始めた際にビーブ音が鳴ります（送信ビーブ）ので、鳴った後に話をしてください。スーパーセーブ機能を“OFF”に設定すると、送信ビーブも“OFF”になります。
- スーパーセーブ機能を“ON”に設定すると、受信中頭切れを起すことがあります。頭切れを防止するために、相手局についてもスーパーセーブ機能を“ON”に設定することをお勧めします。

操作のしかた（必要に応じて使う機能）

2 時間オフタイマー（F31 自動電源 OFF）

2 時間何も操作しないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源を OFF にし、電池パックの消耗を防ぎます。1 分前に警告音が鳴り、電源が切れます。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F31 自動電源 OFF” 選択
4. () 希望の動作を選択

セットモード	F31
◀ 自動電源OFF ▶	OFF

OFF（初期値）	オフタイマーは動作しません。
ON	2 時間のオフタイマーが動作します。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

拡張機能の設定を初期値に戻す（F32 設定リセット）

拡張機能の設定をリセットし、初期値の状態に戻します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F32 設定リセット” 選択
4. 設定リセットを実行

キャンセルの場合は

() で “キャンセル” を選択

5. 電源を切り、再度電源を入れる

セットモード	F32
◀ 設定リセット ▶	実行

セットモード	F32
設定リセット	実行

設定リセットを
実行する

セットモード	F32
設定リセット完了	

操作の
しかた

故障かな？と思う前に...

間違った操作をしていませんか？ 修理を依頼される前に、ご確認ください。

◎ 電源が入らない！

- ・ 電池パックが消耗していませんか？
 ▶▶▶ 電池パックを充電してください。
- ・ 電池パックの端子が接触不良になっていませんか？
 ▶▶▶ 端子を乾いた布で拭いてください。
- ・ 電池パックが古くなっていませんか？
 ▶▶▶ 電池パックの寿命です。新しい電池パックとお取り替えください。

◎ 送信できない！

- ・ PTT スイッチを正しく押していますか？
- ・ 相手局が通話中ではありませんか？
 ▶▶▶ 通話が終わるまでお待ちください。
- ・ キーロック機能が動作していませんか？
- ・ 送信出力の設定が“受信専用”になっていませんか？
- ・ 上空用チャンネルになっていませんか？
 ▶▶▶ “上空 -1” ~ “上空 -5” チャンネルは、モニターのみで送信することはできません。

◎ 通話できない！

- ・ 相手局と同じチャンネルに設定していますか？
- ・ 相手局との距離が離れすぎていませんか？
- ・ 相手局と同じ通信方式に設定していますか？
- ・ 相手局と同じユーザーコードに設定していますか？
- ・ 秘話機能が動作していませんか？
 ▶▶▶ お互いに秘話機能を動作させ、更に秘話コードが一致していないと、交信することはできません。

定 格

- 送受信周波数： デジタル簡易無線登録局 (6.25kHz 間隔、30 波)
 351.20000MHz ~ 351.38125MHz
 上空用チャンネル (6.25kHz 間隔、5 波)
 351.16875MHz ~ 351.19375MHz (モニターのみ可)
- 変調方式： 4 値 FSK
- 通信方式： 単信 (プレストーク) 方式
- 送信出力： 5W/2.5W/1W (+ 20%、- 50% 以内)
- 低周波出力： 0.7W 以上 (10% 歪時)
- 電池持続時間： FNB-V145LI (構成成品)
 スーパーセーブ機能 ON 時： 約 16 時間
 スーパーセーブ機能 OFF 時： 約 13 時間
 (送信出力 5W 時、送信5、受信5、待ち受け 90 の割合で運用時)
- 電源電圧： DC 7.4V $\pm$ 10%
- 温湿度範囲： 温度 - 20°C ~ + 60°C
 湿度 95% (35°C)
- 本体寸法： 56mm (幅) $\times$ 100mm (高) $\times$ 31mm (奥行) (突起物を含まず)
- 本体重量： 約 260g
 (FNB-V145LI、アンテナ、MIC/SP 端子カバーを含む)

- ☐ 定格を予告なく変更することがあります。
☐ RoHS 指令準拠

音声圧縮 (符号化) 方式について

本機は、米国 DVS 社の開発した AMBE (Advanced Multi-Band Excitation) 方式を採用し、AMBE+ 2™ に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copy-rights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form.

U.S. Pat. Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,754,974, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

本機ディスプレイに表示されるフォントは、リコーインダストリアルソリューションズ株式会社が製作、販売したリコービットマップフォントを使用しています。

オプション一覧表

品 名	型 番
薄型リチウムイオン電池パック 1260 mAh	FNB-V144LJ
標準型リチウムイオン電池パック 2100 mAh（構成品と同等）	FNB-V145LJ
急速充電器セット（CD-70 + PA-55A）	VAC-70
ベルトクリップ（構成品と同等）	CLIP-20
スタビーアンテナ（構成品と同等）	ATU-12J
ウルトラスタビーアンテナ	ATU-17J
防水型スピーカーマイク	MH+66A7A
コンパクトスピーカーマイク	MH+82A7A
スピーカーマイク	MH+83A7A
タイピンマイク&イヤホン（八重洲無線製）	EK-505W
小型タイピンマイク&イヤホン（八重洲無線製）	EK-313-581
咽喉マイク&イヤホン（八重洲無線製）	EM-01-581
小型スピーカーマイク（八重洲無線製）	EK-404-581
イヤホンアダプタ（八重洲無線製）	EA-581
EA-581 用イヤホン（八重洲無線製）	ME101/100CM

詳細等はカタログ及び八重洲無線株式会社のホームページ <http://www.yaesu.com/jp/> を参照してください。

キー操作早見表

キー / スイッチ / ツマミ	動 作		
	まわす	短押し	長押し
	電源 ON/OFF (音量調節)	—	—
	右 (チャンネルアップ)		—
	簡易リスト 拡張機能 宛先選択	選択	
	左 (チャンネルダウン)		—
	簡易リスト 拡張機能 宛先選択	選択	
	—	送信	送信
	—	簡易リスト移行	
		簡易リスト 拡張機能 宛先選択	個別通信時 宛先設定
	—	簡易リスト 拡張機能 宛先選択	選択
			右桁移動
	—	簡易リスト 拡張機能 宛先選択	選択
			左桁移動
	—	一つ前に戻る	キーロック
	—	録音	
		簡易リスト 拡張機能 宛先選択	アップ
	—	スキャン	
		簡易リスト 拡張機能 宛先選択	ダウン
 +  (電源スイッチ)	—	—	拡張機能移行

索引

番号	
2 時間オフタイマー	25, 71
A	
ACC 電源	65
C	
CALL	20, 36
CD-70	17, 74
CH 空き通知	21, 30, 65
F	
FNB-V144LJ	15, 16, 26, 74
FNB-V145LJ	5, 15, 16, 73, 74
I	
IP67	5, 8
L	
LED インジケータ	16, 18, 21
M	
MIC/SP 端子	5, 18, 65, 66
P	
PA-55A	16, 17, 74
PTT スイッチ	6, 18
PTT ホールド	25, 31, 68
T	
TX AGC	67
U	
UC (ユーザーコード) 通信	20, 34
UC通信機能	22, 34
V	
VOX 機能	25, 55, 66
あ	
アンサーバック	26, 30, 42
安全上のご注意	7
アンテナ端子	18
アンテナの取り付け	12
い	
イコライザー機能	25, 53
イヤホン / スピーカーマイク	
の特性補正	25, 31, 66
インテリジェント	
オーディオライト機能	25, 26, 54

お	
オプション	74
音声圧縮 (符号化) 方式について	73
音声案内	25, 31, 59, 69
音量調節ツマミ	6, 18, 22, 61
か	
外部アクセサリタイプ	66
外部マイクロホンの取り付け	66
各機能の設定	25
拡張機能	24, 25, 28, 30, 33
各部の名称と機能	18
簡易リスト	25, 26, 27
管理番号表示	33
き	
キー操作早見表	75
キーロック機能	19, 24
キーロックの条件を変更	24
キャリアセンス機能	21, 23
緊急宛先	28, 48
緊急アラーム機能	25, 45
緊急応答宛先	28, 49
緊急個別	28, 49
緊急を“一斉”で知らせる方法	45
く	
グループベル	28, 41
こ	
構成品	5
コールチャンネル	20
コールモード	25, 28
故障かな?と思う前に	72
個別通信機能	25, 38
個別ベル	28, 40, 41
コントラスト	25, 31, 61
さ	
左右選択キー	6, 19
し	
自局情報	25, 26, 41
弱電界アラーム	30, 64
充電方法	16
受信ビープ	25, 63

上空用チャンネル..... 20, 25, 31, 70

す

スーパーセーブ..... 15, 31, 70

スキャンPTT..... 21, 25, 31, 58

スキャン機能..... 18, 25, 31, 56

スキャンタイプ..... 31, 57

スピーカー..... 19

せ

セカンダリPTT..... 25, 31, 59, 69

設定リセット..... 31, 71

セットモード..... 25, 30, 32

セミVOX オペレーション機能..... 54

選択 / 機能キー..... 6, 19

そ

送信出力.. 15, 19, 22, 25, 30, 67, 73

送信ビーブ..... 25, 63, 70

ち

着信履歴..... 26, 42, 43

チャンネル空き通知..... 21, 30, 65

チャンネル構成..... 20

つ

通話のしかた..... 22, 35, 37

て

定格..... 73

ディスプレイ..... 19

デュアルレシーブ..... 31, 56, 57

デュアルレシーブスキャン..... 56, 57

電源スイッチ..... 6, 18

電池アラーム..... 30, 64

電池パック..... 7, 11, 14

電池パックの取り付け..... 15

電波干渉..... 4

め

免責事項..... 5

の

ノイズキャンセル機能..... 25, 26, 54

は

バックライト..... 18, 25, 31, 59, 69

発信履歴..... 26, 42, 43

ハンドストラップの取り付け..... 13

ひ

ビープレベル..... 30, 61

秘話機能..... 19, 25, 26, 36

ふ

プログラムキー..... 25, 50, 56, 59, 69

プログラムスキャン..... 56, 57, 58

へ

ベルトクリップの取り付け..... 12

ほ

ボイスチャンネルアナウンス..... 59

防水性能..... 5

ま

マイク..... 29, 30

マイクレベル..... 25, 62

む

無線局登録申請..... 4, 5

め

メッセージ送信..... 26, 42, 44

も

戻るキー..... 6, 19

ゆ

ユーザーコード通信..... 20, 34

ユーザー同士で交信したい..... 34

り

リセット..... 31, 71

リチウムイオン電池パック... 5, 14, 74

リピート再生..... 25, 26, 52

れ

連続送信停止予告音..... 21

ろ

ロータリースイッチ..... 6, 18, 22, 24

録音メモ機能..... 25, 50

わ

ワンタッチボリュウム... 30, 31, 60, 69

[illegible]

<< 無料修理規定 >>

1. 取扱説明書、本体貼り付けラベル等の注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合は、保証期間内（お買い上げ日より3年間）無料修理をさせていただきます。
 2. 保証期間内に無料修理をご依頼される場合は、お買い上げの販売店へ製品と本保証書をご持参・ご提示の上、お申し付けください。
 3. 保証期間内であっても、次の場合には有料となります。
 - (1) 本保証書のご提示がない場合。
 - (2) 本保証書にお買い上げ年月日、お客様名、お買い上げ販売店名の記入がない場合。
 - (3) 使用上の誤り、不当な修理・調整・改造による故障およびそれらが原因により生じた故障、または故障の原因が本製品以外の機器にある場合。
 - (4) お買い上げ後の取付場所の移動・輸送・落下等による故障および損傷。
 - (5) 火災・地震・風水害・落雷・その他の天変地異・異常電圧などによる故障および損傷。
 - (6) 他の要因（アンテナの不備・電波障害・設置場所など）により正常に動作しない場合。
 - (7) 消耗部品（バッテリーなど）に関するものの交換。
 4. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
(This warranty is valid only in Japan.)
- この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権限を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または八重洲無線株式会社国内営業部にお問い合わせください。
 - 修理・保証のお問合せ先：
八重洲無線株式会社 国内営業部
〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8
天王洲パークサイドビル
電話：03-6711-4055
URL：<http://www.yaesu.com/jp/>

開発製造：バーテックススタンダード LMR 合同会社
a Motorola Solutions Company

お客様の個人情報保護について

お客様のお名前・ご住所・電話番号などの個人情報を第三者に開示、または提供することは一切ありません。
お客様の情報は今後、当社および八重洲無線株式会社の顧客管理のみに使用させていただきます。



STANDARD 保証書

持込修理

お客様の正常な使用状況で万一故障した場合は、「無料修理規定」（裏面参照）により無料修理させていただきます。

お客様へのお願い

お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・トランシーバーの製造番号（本体に記載）をご記入ください。

販売店様へのお願い

お買い上げ日・貴店名・住所・電話番号を記入のうえ、お客様へお渡しください。

※印の欄は、必ずご記入ください。

ご記入の際は、ボールペン等ではっきりと読みやすくご記入ください。

機種名

製造番号 (SER NO.)

VXD30

※ お買い上げ年月日

年

月

日

保証期間（お買い上げ日より）

3 年（本体）

- 修理はお買い上げの販売店へ必ず本保証書を添えてご依頼ください。
- 修理・調整には計測器を必要とするため、出張修理は行いません。
- 本保証書は再発行しませんので、大切に保管してください。

※ お客様記入欄

ご住所 〒

お名前

電話番号

※ 販売店

店名

住所

電話番号